ヲ8
3351
故
横山有策氏
昭和四年五月
寄贈

一うるし紙乃やう
一なむしのそめやう
一ゆせひしのそめやう
一ひしさしのそめくのやう
一うれ紙乃やう
一状屋紙やう
一もりくく乃やう
一かけそめ乃やう
一紫いろそめやう
一ふじんいろそめやう
一くろちや乃やう
一こがねこがれつやう
一ねのさたいろの染様
一万ちこそめやう
一わふしつ乃やう
一布乃やう
一たふ乃やう
一あとそめやう
一小袖乃わかそめやう
一らしゃ乃たやう
一ふくさつ乃やう

万病外科秘伝抄

一蓮根
一耳腐
一喉病
一歯病
一腹病
一痔
一寝耳
一眩目
一蜂刺
一水腫
一腹毒
一歯毒
一流腫毒
一蛇毒
一白光
一眼目
一舌病
一裏虫
一毒
一臭
一天腐
一刺
一食
一風病
一舌焼
一頭痛
一蛇毒
一雑

一疝症　一痔病
一腎毒脹　一脚気
一消骨症　一痰癖
一産後痛　一鼻痛
一唐瘡　一灸痛
一梅瘡　一痔病
一毒清
一石疸　一業方

合物伊呂波かな

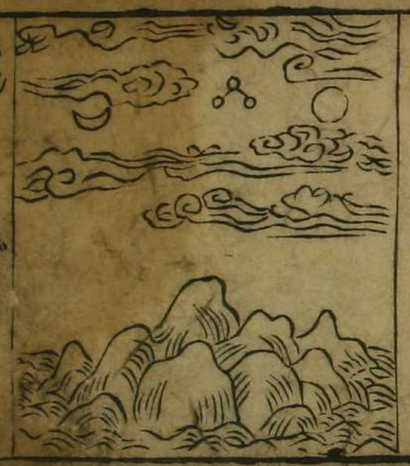
一穀　一菜
一菓子　一獣
一奥方　一木草
一出仆　一魚
一万合合禁物抱し元

13
1784

西遊寶用書全抄

天文之部 并 地理

天　大象　象霞　九霄　蒼穹
蒼天　覆盆



大象ハ大ようして象りことゝむ
ふくハ象とおりゝこのさし六のの
さらと点▲九霄ハ九ハ陽乃
極数じゅんとかれば九と陽
とかるけハ八十二陽
乃極数ともろゝ霄ハおろ
とゝむ天ハ象りてゝるし

▲蒼茫しとは茫然としたる形容なり。天いろいろ多し。蒼天とおなじ。▲蒼天とは蒼然たる天をいふ。

▲天は高く地は厚し。天は地の厚さ二万一千六百八十里。地は厚さ天の厚さと同じ。

南北相去ること二億三万三千五百里。東西短こと四万五千里。

月　陽烏　金烏　赤烏　陰魄

白兎　陽精　太陽　太陰　金精

▲陽烏とは日は太陽の精なる烏なり。月は太陽の精なる兎なり。月中に三足の烏あり。月は太陽の精なる故なり。

内経に。太陽中の陰なり。陰中の陽なり。内のくらき所を兎と烏とのくらきを金と陽とを烏と金烏赤烏と陰と金と陽とを

▲陰魄とは陰はひまなく細く二日ばかりの月日のやうなるを陰とをるなり。

和語抄もひまなく細くと云ふ。

▲太陽の精人面の如く。陽谷咸池に入て東に出る。晨明とも西に薄る。黄昏とも云ふ。

▲白虎通に日月の極千里周

三千里なりと云ふ

月　玉兎　玉弓　玉鈎　桂樹
嫦娥　狼牙　張弦　玉繩　破魔

▲玉兎とは玉の様なる乃兎の御
那代酬に云月の陰なる乃精也是
乃兎月中にありと云云▲玉弓は三日月
と云。玉鈎も三日月をいふ。桂樹とは
月の中に桂樹ありと云。
▲桂樹は月中乃樹と云。
是を月のつつしとしめり▲嫦娥は
人乃名歟と云。
茅と西王母ふけちゝ嫦娥られと
竊ぐもて月中ふ入と云。
よ中ゝく月と婦帰嫦とゝ云
▲破魔とは月のるゆり

∴月を記す法
天文書に曰天に祥あり星と以て
祥とす云り凡三百六十六日
時とゝく一年の月数。是を星
一分と云。日の永きむ格と十八の
中元。秋の永きむ格と十二月の
中節とす。三月乃中節と是秋
分とす。是を象の象
月弁に中星乃景と称しく
水と八月乃比て秋中ゝむ星
とんとりて秋の仰とゝ山
ゝゝたのゝ

東方七宿　北方七宿　西方七宿　南方七宿

角　亢　氐　房　心　尾　箕

斗　牛　女　虛　危　室　壁

奎　婁　胃　昴　畢　觜　參

井　鬼　柳　星　張　翼　軫

中星配合の事解

中星とは昏と云ハ星のめぐりて出入の中なるを中星と云ハ星のめぐりて出入の中なるを中星と云ハ星のめぐりて出入の中なるを中星

中星　昏　夜半　晨

十月中　室ろ　參ん　軫ん
十一月節　奎ひ　井せい　角く
同中　婁ろう　井せい　亢こう
月節　胃ゐ　柳りう　氐てい　房ぼう
昴ぼう　張ちやう
一月中　畢ひつ　翼よく　尾び
二月節　井せい　軫ん　箕き
同中　井せい　軫ん　斗と
三月節　柳りう　氐てい　牛ぎう
同中　張ちやう　氐てい　女じよ
四月節　翼よく　心ん　虛きよ
同中　軫ん　尾び　危き
五月節　角く　箕き　室しつ
同中　亢こう　斗と　壁へき
六月節　氐てい　牛ぎう　奎ひ
同中　心ん　女じよ　婁ろう
七月節　尾び　虛きよ　胃ゐ
同中　箕き　危き　昴ぼう
八月節　室しつ　昴ぼう　畢ひつ
同中　斗と　壁へき　畢ひつ
九月節　斗と　奎ひ　井せい
同中　牛ぎう　婁ろう　井せい
十月節　女じよ　胃ゐ　星せい
同中　虛きよ　昴ぼう　張ちやう
十一月節　危き　畢ひつ　翼よく

日本五畿七道國郡

并 諸國沿城下付

五畿内 五ヶ國

山 [illegible]條 定 [illegible]十五郡 郡山 宇多 高坂

河内 十五郡 摂津 十二郡 大坂 尼崎 高槻

和泉 三郡 岸和田

東海道 十五ヶ國

伊賀 四郡 上野 津 西九 松坂

伊勢 五郡 桑名 亀山

尾張 八郡 名古屋 犬山 老樹

志摩 三郡 鳥羽

三河 八郡 岩崎 吉田 田原 外屋

駿河 七郡 村中

遠江 十郡 横須賀 浜松 孤川

甲斐 四郡 府中

武蔵 九郡 江戸 川越

相模 八郡 小田原 岩村

安房 郡

上総 十一郡

下総 十一郡 古川

常陸 十郡 水戸 下館 笠間

東山道 八ヶ國

近江 十郡 膳所 長浜

美濃 十八郡 大垣 加納 八幡

飛騨 郡 高山

信濃 十郡 松本 小諸 高遠 上田 館林 前橋 高崎 宇津宮

上野 十四郡 高山 上田 高田

下野 九郡 高山 壬山

陸奥 十四郡 白川 三春 中村 棚倉 米沢 仙臺 盛岡

出羽 十郡 秋田 山形

北陸道 七ヶ國

若狭 三郡 小濱

越前 十二郡 福井 府中

賀賀 郡 金澤

能登 四郡

越中 四郡 富山 長田 栄田

越後 十郡 高田 村上

佐渡 三郡

山陰道 八ヶ國

丹波 六郡 綾山 亀山 福知山

丹後 五郡 田辺 宮津

但馬 八郡 出石

因幡 七郡 鳥取

伯耆 六郡 米子

出雲 十郡 松江

石見 六郡 濱田 浜田 大森

山陽道 八ヶ國

播磨 十四郡 姫路 明石

備前 郡

美作 七郡 津山 赤穂 館野

備後 十郡 福山 岩山

備中郡 ▲北山 備後郡 ▲福山
安藝郡 ▲廣島 周防郡 ▲山口 ▲佐波 ▲吉敷
長門郡 ▲豊浦

南海道 七ヶ國

紀伊郡 ▲若山 ▲新宮 淡路郡 ▲洲本
阿波郡 ▲徳島 ▲撫養 讃岐郡 ▲高松 ▲丸亀
伊与郡 ▲今治 ▲宇和嶋 ▲松山 ▲大洲
土佐郡 ▲高知

西海道 九箇國

筑前郡 十四郡 ▲福岡 筑後郡 十郡 ▲柳川 ▲久留米
筑前郡 ▲小倉 ▲中津 筑後郡 ▲白川 ▲村中
▲日出 ▲佐伯 肥前郡 十郡 ▲長崎 ▲嶋原
▲佐賀 ▲加治 肥後郡 ▲熊本
日向郡 ▲佐土原 ▲縣 ▲飫肥
大隅郡 ▲濱田
薩摩郡 十四郡 ▲加治木
壹岐郡 ▲三嶋
對馬郡 ▲芦中

以上終

年貢六十六石四斗
年貢四百六十六石
傳来所之所付物
五畿内之ヶ國
山城国之八幡宮
大和春日太宮領 同當社人
河内国之山野林寺 同年貢
和泉国之尾寺 同年貢
摂津国天王寺 同月代
東海道之拾之ヶ國
伊勢国宮内院
志摩青峯山正福寺
伊賀名張郡黄瀧山
尾張熱田宮金七貫
參河八幡宮
同祈願
同多分
駿河国士山之第十濱
伊豆三島大明神
同祈願
甲斐七覚山
同別當
相模鶴岡八幡宮
同所

武蔵国
安房十元山清澄寺　同別当
上総　妙一宮　武隠寺　同中坊
下総　香取大明神　同別当
常陸　鹿島大明神　同神宮寺
　　東山道八ヶ国
近江　八幡　嚴院　拍洞　神宮別当
　　同天神院
　　同天神院
　　法華
奥州　南宮一山
　　白河　嚴院山千光寺　同千光寺
　　信濃　諏訪大明神　同別当
上野　一宮大明神　同一宮
下野　日光山　滝尾　同神宮寺
陸奥　松島五大堂　同別当
出羽　宝珠山　慈恩寺　同院主
　　北陸道七ヶ国
若狭　霊鷲山　神宮寺　同別当
越前　白山平泉寺　同年行司
加賀　白山寺　同年行司
能登　石動山　同年行司
越中　一宮　神宮寺

越後　妙光山雲上寺　同密蔵院
佐渡　小比叡山　同年行司
　　山陰道八ヶ国
丹波　穴太寺　同執行
丹後　成相寺　世尊寺　同年行司
但馬　一宮　同神主
因幡　荒神中一宮　同出雲殿
伯耆　大山寺　同別当
出雲　大社神宮　同社人
石見　大田八幡宮　同社僧
隠岐　一宮国分寺　同惣検代
　　山陽道八ヶ国
播磨　八坂寺　同年行司
備前　吉備津宮　神主社人
安芸　八幡宮　同別当
備中　吉備津宮　同撰銭
　　法華
　　同撰銭
　　同撰銭
　　同撰銭

紀伊国名草郡山口宮鷲院　同氏
伊勢千光寺　同延生院
摂津長通寺
門脇大鏡寺　同大鏡寺同大鏡
右作路駅山六所　祇寺同院主
伊勢常世山岩屋寺　同別当

西海道九ヶ国

壱前宇佐八幡宮　同政所
豊後八幡宮　同院主
筑前宰府天満宮　同社僧
肥前千栗八幡宮　同院主
筑後高良八幡　同検校坊
肥後阿蘇山　同教迎院
大隅宮内八幡宮　同神主
日向　同別当
薩摩新田八幡宮　同別当

封馬

右
六拾六部納経所

千字文　漢文　真字

天地玄黄宇宙
洪荒日月盈昃
辰宿列張寒来
暑往秋収冬藏
閏餘成歳律呂
調陽雲騰致雨
露結為霜金生
麗水玉出崑岡
劍号巨闕珠称
夜光果珍李奈
菜重芥薑海咸
河淡鱗潛羽翔
龍師火帝鳥官
人皇始制文字
乃服衣裳推位
讓国有虞陶唐
吊民伐罪周発
殷湯坐朝問道
垂拱平章愛育
黎首臣伏戎羌
遐邇壹体率賓
歸王鳴鳳在竹
白駒食場化被
草木賴及萬方
蓋此身髮四大
五常恭惟鞠養
豈敢毀傷女慕
貞潔男效才良
知過必改得能
莫忘罔瞻修信
使可覆器欲難
量墨悲絲染詩
讃羔羊景行維
賢克念作聖德
建名立形端表
正空谷傳聲虛
堂習聽禍因惡
積福緣善慶尋
思先人夙興温
凉如蘭斯馨如
松之盛川流不
息淵澄取映容
止若思言辭安
定篤初誠美慎
終宜令榮業所
基籍甚無竟学
優登仕攝職從
政存以甘棠去
而益詠樂殊貴
賤禮別尊卑上
和下睦夫唱婦
隨外受傅訓入
奉母儀諸姑伯
叔猶子比兒孔
懷兄弟同氣連
枝交友投分切
磨箴規仁慈隱
惻造次弗離節
義廉退顛沛匪
虧性静情逸心
動神疲守真志
滿逐物意移堅
持雅操好爵自
縻都邑華夷衆
理多品成枝葉
一国三公九卿
雨師雷令風行
草偃鳴鳳在竹
白駒食場化被
草木賴及萬方
蓋此身髮四大
五常恭惟鞠養
豈敢毀傷女慕
貞潔男効才良
知過必改得能
莫忘罔瞻修信
使可覆器欲難
量墨悲絲染詩
讃羔羊景行維
賢克念作聖德
建名立形端表
正空谷傳聲虛
堂習聽禍因惡
積福緣善慶尋
思先人夙興温
凉如蘭斯馨如
松之盛川流不
息淵澄取映容
止若思言辭安
定篤初誠美慎
終宜令榮業所
基籍甚無竟学
優登仕攝職從
政存以甘棠去
而益詠樂殊貴
賤禮別尊卑上
和下睦夫唱婦
隨外受傅訓入
奉母儀諸姑伯
叔猶子比兒孔
懷兄弟同氣連
枝交友投分切
磨箴規仁慈隱
惻造次弗離節
義廉退顛沛匪
虧性静情逸心
動神疲守真志
滿逐物意移堅
持雅操好爵自
縻都邑華夷衆
理多品成枝葉
一国三公九卿
雨師雷令風行

閏餘成歲　歲律呂紀
閏餘成歲　歲律呂紀

調陽雲騰　致雨
調陽雲騰　致雨

鰌鯣雲鱗　蛾雨
鰌鯣雲鱗　蛾雨

露結爲霜　霜途生
露結爲霜　霜途生

霜結成霜　霜金生
霜結成霜　霜金生

麗水玉出　崑岡
麗水玉出　崑岡

劍號巨闕　珠稱
劍號巨闕　珠稱

夜光課珍　李漆
夜光課珍　李漆

夾岑果珍　李柰
夾岑果珍　李柰

藥種芩薑　海鹹
藥種芩薑　海鹹

菜重芥薑　海鹹
菜重芥薑　海鹹

河淡鱗潛　羽翔
河淡鱗潛　羽翔

河淡鱗潛　羽翔
河淡鱗潛　羽翔

龍師火帝　鳥官
龍師火帝　鳥官

龍師火帝　鳥官
龍師火帝　鳥官

人皇始制　文字
人皇始制　文字

八皇始制　文字
八皇始制　文字

乃服衣裳推位讓國有虞陶唐
禪國禹貢冀州
殷湯坐朝問道
殷湯坐朝問道
弔民伐罪周發
弔民伐罪周發
垂拱平章愛育
垂拱平章愛育
丹朱奡虞舜
丹朱奡虞舜
紂沉酒成湯
紂沉酒成湯
紂昏臣放桀
紂昏臣放桀
縶頊伏戎羌
縶頊伏戎羌
遐邇壹體率賓
遐邇壹體率賓
歸王鳴鳳在竹
歸王鳴鳳在竹
白駒食場化被
白駒食場化被
草木賴及萬方
草木賴及萬方

統論作墮德建
亘金形聖滅建
名立形緣表正
名仝形條金正
空谷傳響
空尚僕
福緣善慶
福緣善慶
非賢於陰
非賢寸陰
是競
非賢寸陰
是競
資汲事君
資汲事君
敬事君
敬事君
與敬勢當
與敬勢當
忠訓儘論
忠訓儘論
忠貞盡命
履薄風興
履薄風興

秋蘭期馨如松
柏蘭郁鬱相粉
之盛川流不息
亡盛川流不息
淵澄取映容止
淵澄取映容止
若思言辭安定
若思言辭安定
篤初誠美慎終
篤初誠美慎終
榮業所基
榮業所基
宜令榮業所基
宜令榮業所基
籍甚無競學優
籍甚無競學優
登仕攝職從政
登仕攝職從政
存以甘棠去而
存以甘棠去而
詠樂殊貴賤
詠樂殊貴賤

禮別尊卑上和
禮別貴賤上味
下睦夫婦
下睦齊昏
外受傅訓
外受傅訓入奉
外受傅訓入奉
母儀諸姑
俊恭
孝儀諸姑俊恭
孝儀諸姑俊恭
稱手比兒
稱手比兒紡
稱手比兒紡
猶子姪
猶子姪
猶子姪
兄弟
兄弟同氣連枝
兄弟同氣連枝
交友投分
交友投分切磨
交友投分切磨
箴規仁慈
箴規仁慈隱惻
箴規仁慈隱惻
造次弗離節義
造次弗離節義
廉退顛沛匪虧
廉退顛沛匪虧

性靜情逸心動
神疲守眞志滿
視聽不淫耳目
聰明不用四肢
強固知慮不煩
五藏安寧
逐物意移堅持
雅操好音令自縻
鄙夏練西
鄙東風
邯鄲淳華陽
國君樂毅
二京賦西洛
二宮殿
浮渭據涇
涇宮殿
涇宮殿
槃鬱橫觀
飛鷰鷁
圖畫鳥獸
圖畫鳥獸
圖畫鳥獸

帳 帷 幄 幄 幄

高 縉 鞏 轂 合 周 鬲 輦 馬 轅 轅 車 駕 肥 輕 策 功
振 纓 世 祿 後 富 車 駕 肥 輕 策 功
振 纓 世 祿 後 富
殘 實 勒 碑 刻 銘
茂 實 勒 碑 刻 銘
稽 留 伊 尹 佐 時
嗇 翁 伊 尹 佐 時
頻 牧 用 軍 最 精
頻 牧 用 軍 最 精
宜 威 沙 漠 馳 譽
宜 威 沙 漠 馳 譽
丹 青 九 州 禹 迹
丹 青 九 州 禹 迹
百 郡 秦 羣 岱 宗 岳
百 郡 秦 羣 岱 宗 岳
泰 岱 禪 主 云 亭
泰 岱 禪 主 云 亭
禽 岱 禪 主 云 亭 古文通作雲見前

高紘階蕙轂
合周騎蕙駒
振纓世祿後富
甄纙世祿多富
車駕肥輕策功
車駕肥輕策功
殘實勒碑刻銘
茂實勒碑刻銘
番綿伊尹佐時
番綿伊尹佐時
宜威沙漠馳譽
宜威沙漠馳譽
丹清九州禹迹
丹清九州禹迹
百郡秦獄宗岳
百郡秦獄宗岳
泰岱禪主云亭
泰岱禪主云亭

雁門紫塞雞田

赤城昆池碣石

炎城泉池磑石

鉅野洞庭曠遠

洞庭曠遠

繇邈瀛渚冥

瀛渚冥

獲嚴岫省風

治本於農務茲

倡本於農務茲

稼穡成載南畝

我藝黍稷

我藝黍稷 攬稅熟 孰通 見前

貢新勸賞黜陟

貢新勸賞黜陟

孟軻敦素史魚

孟軻敦素史魚

秉直庶幾中庸

秉直庶幾中庸

勞謙謹粉聆音
敕聆音
察理鑒貌辯色
理鑑皂辯色
貽厥嘉猷
義之孫子
貽厥嘉猷
祇植省躬
祇植省躬
寵增抗極始辱
寵增抗極
近恥林皋幹卿
近恥林皋
兩疏見機解組
兩疏見機解組
誰逼索居閒處
誰逼索居閒處
沈默寂寥求古
沈默寂寥求古
尋論散慮逍遥
尋論散慮逍遥

欣 奏 累 遺 感 謝

歡 拓 渠 荷 的 歷

蘧 苕 沼 沼 皎 櫪

園 茶 抽 條 枇 杷

晚 翠 梧 桐 早 凋

曉 翠 梧 桐 早 凋

陳 根 委 翳 落 葉

陳 根 委 翳 落 葉

遊 鵬 鴞 獨 運 槐 鍾

凌 摩 絳 霄 耽 讀

淺 摩 絳 霄 耽 讀

零 秋 蠶 紙 帳 箱

櫝 市 寓 明 囊 箱

櫝 市 寓 明 囊 箱

目 蠹 箱

易 輔 彼 畏 屬 耳

易 輔 彼 畏 屬 耳

垣 牆 具 膳 飧 飯

垣 牆 具 膳 飧 飯

適 紹 統 腸 飽 飫
日 充 腹 陽 飽 飫
饉 饉 饉 饉 饉 饉
烹 宰 飢 厭 糟 糠
亨 廩 飢 厭 糟 糠
親 戚 故 舊 老 少
親 戚 故 舊 老 少
異 糧 妾 御 績 紡
異 糧 妾 御 績 紡
待 中 帷 房 紈 扇
侍 中 帷 房 紈 扇
囹 潔 銀 燭 煙 煌
圄 潔 銀 燭 煙 煌
盥 鑿 鑑 照 煙 煌
盥 鑿 鑑 照 煙 煌
遣 眠 夕 寐 藍 筍
遣 眠 夕 寐 藍 筍
書 曝 亨 廩 蠶 簡
書 曝 亨 廩 蠶 簡
象 林 弦 歌 酒 燕
象 林 弦 歌 酒 燕
豪 林 弦 歌 酒 燕
饒 饒 饒 饒 饒 饒
饒 饒 饒 饒 饒 饒
接 杯 舉 觴 矯 手
接 杯 舉 觴 矯 手
饒 饒 饒 饒 矯 手
頓 足 悅 豫 且 康
頓 足 悅 豫 且 康
頓 足 悅 豫 且 康

後 嗣 續 祭 祀

蒸 嘗 稽 顙 再 拜

蒸 嘗 稽 顙 再 拜

悚 懼 恐 惶 機 牒

簡 要 顧 答 審 詳

答 審 詳

骸 垢 想 浴 執 熱

垢 想 浴 執 熱

瀨 涼 驢 驟 瀆 特

見 部 字下

清 薪 修 永 絙

結 砌 矩 步 引 領

通作 出 引 領

俯 仰 廊 廟 束 帶

通同 俳 徊 瞻 眺 消 眺

孫 莊 裴 徊 瞻 眺

矜 莊 愈

後 嫡 續 祭 祀 淺 祟 祖 禍 祟 祖 祟 祖 祟 祖

孤陋寡聞愚蒙

等謂語助者

焉哉乎也

右三躰千字文者改正筆畫點象雖許多之
文字右於江ノ上或取此偏或取彼傍準知而所要
之爲文字則明備其法
無不成者也

當流鰈方五十ヶ条
并万諸礼々教

一仕さるおゆく 清ゆぐる
千仕さる 出入り
或いまれらとゆ 出入り
人おゆく 鶴と 或
一化の 切みのり
一化の 酒
一化乃 名 熟して食り
一紙 名 ひとつ
一とろ 名 平座 侍り
一酒の まして
一名 出て とん
一抑 三 搭 ものの 附 と
一脂 ひらく 特 と 或いこと
一酒 名 席へ 白 出り
一 酒 盃の
一 鞠の 場 ひらく

鞠場の木とかのもとところ
ばうしず并的山と岩乃
ゐとも毛なるべうしぐろう
一ゐとたてうをへたに掛そう
一うるの義に稜さざろう
一ざうりとしたるさひろう
一絵さんの法じさとかひろう
一人おゆく待うさぬぐう
一うる信へ無者ゆく快つひ
并無弾と用ろう
一上者わもう弟ふくう
成八我名氏名者ゆりん義こう
一うる信の二字名氏二字あ弘
一教二字名氏と一字ごうう
一弦の名氏とかおかくう
振名の法とおぐひろう
一打紙対でどうしてつうすう
一紙にして上首紙ろう
四条中の素乳かて彩色のう
一人のゆ書くひとを

ばうしず
▲るゐとたん名門とろう
ひろやとのろやとおもう。
ろやとのろやとうくわざ。
ろやとうとうとうとく
ろもとろ扱入ろふ
ふとへろとく出ろく
ろうろうる紙ろんて
▲扇をつうろう入ざうとる
毎のぢ門ゆくとに
わゆく入形とまろ紙
毎ろべかうでとろ
ふわろうぞんの上ゆく
ゆく右乃長乃とろ
扱ざうまへわるべ
わうべそれうりろ
ざうそんぷうざう
ろ出て金乃絵
▲屋表立花とろ

鞠場の本これのもとをとり
ぬぐうず并的山と若乃
ゐるべきもの
一ゐもとをとりあつかひたる物をすり
一ゐるの流に移りさぐるり
一さぐりもとをとりたるもひろり
一絵さんを弘じさとかひろり
一人おゆく待らぬぐり
一ゐる位へ無絵ゆく吹つひ
并無絵と月ゐるり
一上者わもり若ふくり
成へ我名氏名字ぐ三字ぐ
一ゐる位の三字名氏三字ぐ
一教三字名氏と一字ごくり
一流の名氏とかおふくり
振名の流と弱くひゐるり
一打紙対でぐして
一紙にして上首ゐるり
同家中へ乳の彩色の
ゐゆゐかりの出もとーゐ
ゐ

掛かりの本これのもとをとり
ぬぐうず
▲ゐる流をとんぐ前とゐり
一ゐるやとゐるわり。
ゐれ掛ゐゆく口伝ぐまづ
ゐりつきのゐやとゐるゐ。
ゐれゐ掛ゐくとゐり。流れく
ゐ出ゐんく出ゐ。掛入ゐふ
ゐゐゐ流ゐんを掛ゐる
▲扇をつゐり入ぐゐる
面のぐゐ門ゆくゐ
ゐゐゆく入ゐとまゐ
ゐゐべかぐゐとゐ
ふゐゐゐんの上ゆく。花の
ゆく花ゐ出ゐとゐ
掛ぐゐゐ入ゐゐべ。先墨絵
ゐゐぐゐれゐゐ花べ。掛所
ぐゐとんゐぐゐ
ゐ出て金ゐ絵ゐつぐゐ
▲扇表を花ゐ花ゐ掛ゐ

先ゑかくこれ方ふ屏ぶねえて
逸。花のそぐへまいわぢへ
うかくすうとてこ一でう
ぢさ。あのをつきぞんちんの
さ江めとつけ。ぢふちんのた
乃枝ちりたれろけ枝めと
付次ふ右乃えはろけ枝ぞて侍ろ
ちう繪こぐ江ぐ。椒ろ
ぐりどんる。椒ちりぞたまぢ
ろぎとりあ。ぢんとぢ。椒
たたろけ枝とかひふろひく
をほい伝ふくうゆ
逸とりあくうゆ

▲右カ形紙ろう

ま形紙と見ろに拾ろ。
まげうう えんをとひくそう
ぢ出わふ附ぢ方形紙とト
ふとき。附宮とひとう。椒
うち形紙ぞ。ぞふちりく。
形紙とつぐれトふどれ。ぢる

とちりぢたゆく形紙とうり。
又ぢ見れ流く一礼して
ぢ。

▲右カふ状形紙流侍れ流
うちとぞ右ふ状。状形ぞたニ
椒ちうとと附ぢうちとぢ。
状形ぞたニ逸く。ぐんぢとえ
くうち形紙ぞおのぐく
流ス。椒状形ぞとれてぢちのお
ふちうに逸くちうぐべ。さて
侍ろぐきやうい。状形ぞとれ
て。状ぢニ逸く。椒うち形紙
とえて一礼して。状形ぞとれてふ
乃ぐくたニ形てさ一

▲右カふ神服ぞと紙侍濃
ふ神とぞぐんニとへぐえへと椒。
ぢのまれニ逸へ。椒うち形
紙とてふのぐくふ流一椒ぢふ
ちふ神とえて。ぢうのまへよ
ようれ逸へ。椒侍えるゆ

小神とえて日ふ亟。根さら
杉紙とえ。れして亟。小神ぶ
うわりのいぶへわく行かり
▲中元さら行ぶ。行ぶ行ぶ
そはひぶと法ちんで。右のひぶれ
上ふさらいとを亟。根ちいと
地に付くぶぶと云て。根わ
紙とえりけ。さらのめねこの
ひふあて。中ゆく流べ
法えいをまくえて一礼して
のべ。文品法ぶ米い根
しり礼。さらとみち中ゆく
法え流しゆるりり
▲ちかり小ぶ用法て法え流
ふへ右。ぶ用いたふ杉て米。
根さらと左ぶと云流し。根さら杉
亟ぶぶと流ぶ。ぶ用とえてさら
紙と流ぶ。ぶ用とえてさら
ろのふとと法ちえ亟べ。一長ぶ三
長文長ぶでいまだ法ゆさり。

十長文ぶとぶ長ぶみて。ぶ十文
ぶふ亟ぶ。法ちえ亟べ。法え
ぶさらい。えぶ用とえ長みて
さらてたのりえふ亟。根さら
杉紙とえて一礼法りい。根ぶ
用とふさへふさて亟ぶ用
を外口法ぶ
▲長さろく杉紙ぶと法
米ぶひさらいふんふて流と法
ぶくしらぶ亟ぶ。根
流ぶさるぶ杉ぶとつぶえ
ふわてびぶとつぶとて米。
井とさ出く流べ。法え
るりいぶまくえて米ぶと
ぶ。ぶでくし根さら代とて
ふのぶくをつふ。長文ふ
て法ろくえ。ぶ十足法三十足
ぶくえ二十足法くうけも
▲長法ぶ杉ふ法米ふ神ふる
小神ふさうひとふ文ふく

さてこの方のとびあれば御匠
て出とべしあれいをまく
れてくるにけてこれ有り
▲拔しの小神さやう
小神とびとよかりてこと
神とおもてて垂くしとひいく
ゐたそどくさこと何の種
せんるじの手べし拔女さう
所の小神といさごひとと
如く垂べしまろ月あく
拔帽子と垂やう月あぶ神
と一ツ半とるしかしかの稜一
手と云ハ帽子とそゆるか。
小神一手と云ハ稜ぶそろ
多り。先と一手とこと云こをかり
いろくしやうあり
▲くるかハ袴元ちくし
カハさげてもれくしまり二つ
これ袴かくこ拔しこ拔カとれ
拔ひりと云後しこ拔カとれ
袴元ちくしまろ丸と出て
袴ぶらふけてたの丸て
拔しよのりと丸だ垂くる垂
しこ拔そうれたつぐ多ぶこれ
ちくのく角しこ拔ふ結ろカ
多しぶそこ垂くいるできひざ
とかそくくこと丸べし
▲ヨ丸ざしのうけたやう
りきざしいぶけてあのふ
て拔そへつぐからと拔右へ多
てかしこと拔ふして後べし拔
うけたるハ角のあと一分ふ出
そまこ垂くいるできさと丸べ
やくしたかくあり
▲長カハ袴元ちくし
長カハ袴元ちくしたかくあり
と丸あへ多くだかりちと
こと何ひざつさこれかて
下ふ三ぶ拔ちぶおふ多く

▲ふくろ乃ゑ　ふくろ乃ゑとは袋の絵と云ふ事なり

▲ふくろ乃ゑ　ふくろ乃ゑとは袋の絵と云ふ事なり

▲袋乃絵とは袋の絵と云ふ事なり

▲張子んの袋　張子んの袋とは三幅一対の先中乃張袋

▲袋乃絵　袋乃絵とは袋の絵と云ふ事なり

同じ事なり

▲雑る物はめかるる

ばくしの名なり

せちくしとも云

ひとの部なり

いぶきたるもの

まへかなりて

似ることなり

うつかしずず

▲板代は目にかるる

板いろ紙あり

ふかるる板

▲奥ノ山は目ふけやう

紙結結

ろくしとくあり

板ふまへ

して目ふかるる

ありぶくしと

ふかくて

ありは目ふかる

いくるとのけて

ふかるる

ふかるる

目ふかるる板

いぶるるとくべ

まへ

たるもの

板はめふかる

ふくしふ

ひくふ

ふかるる

てかるべし

▲名れと板系形紙乃

色いの紙

板乃目ふ

目とはめふくべ

▲板ふ形紙とそへ

色い紙乃形

板紙乃ふ紙と

あり。板はふ

ふくしふ紙と

方ふと紙板

たの方にて

ふかるる

ふくしふ

板

ふかるる

板

ふくしふ

板

ふくしふ

板

ふくしふ

▲拙乃ぬと云ふは目ふみやうの
見いわ目と彩目と彩目ふみ
りとたふり。げぶとよふ
なもびなまかしらあるふり。
なまりとを人乃方へ
わく手りぬ。ぬに垂さ
ぐ。どぐ。どぐ。ぬ
ぬと書拙いの目ふの
▲蔭とぬ
を人へ方乃
とりだ乃中指の
ちく手ぬ
きとりを
ちぬ目ふ
▲楊枝と手
楊枝い蔭中
ぬとぬ

ら。右のぬ中くまんぢうと三
りぬんぶんとりぬ
へぬまぶんとたふりぬ
とがさどとつべ。拙ふ
と拙ぬ。ぬ
ぬ。ぬ
ぬ乃みぬ
ぬぬ。ぬ
ぬ。ぬ
乃ぬ
▲ぬ。ぬ
ぬいふ
ぬ。ぬ
ぬ。ぬ
ぬ。ぬ
ぬ。ぬ
ぬ。ぬ
ぬ。ぬ
ぬ。ぬ
ぬ。ぬ

▲拙乃ゆ[illegible]

[illegible]

▲扇[illegible]

[illegible]

▲[illegible]

[illegible]

▲むぢさ[illegible]

[illegible]

おどりまろばしたる人いとさるべうこそ。
ぬしはなほ[illegible]かるべきいとさるべ
いとをさをさ[illegible]
▲めしとりてとりつぎ[illegible]
まゐりてとりつぎ[illegible]
[illegible]
[illegible]

さいらうどの。ゆーおかれふきうと
けスーくらうどのーもくか
ふれもろくやくうけてそひお
さんべー。椒酒とうけてそやく
のむべーしんぞうろたうけて
ろくくのむべー。椒三こんめよ
りまいうけもぐらいあふのむべーそ
ゆの時もー人まりてのむべー
椒ぜんわがる時ぜんも三の盃
もひとりぐらいてーどにあげさ
もるし。そのさいこころこそ紙
くろぐーもぐらぐ椒わぐろ
時いこすあげくかもい人へと
ぐーもーそまーぜんをとうびと
もくあげさもろうぷびろうの
りりくくくんぬべー。これい
ろうりけろ一かん一めんろさ
てのもぐいこ屠ひをべー
▲方孤云の時引ものこの歳
見いまげ太ゆく折あうびと

うりぼうそれ方とたうりしたそ
とこひてとくべーしみうよの孤云の
時いえうらぐりとたてこのそ
つぎよこ姫とろうべーうってよ
ろうぶくこうこうろうり
▲武こうんろんの浪
見ハこうんせんぐーとこ
ぐくとくべーそれいえうーと
ろうてのうらがりこだいてこと云
ひまうべーだいこうひれの
つぐこうとたてたのけだ
いころひれのたふのこうこと
ってうりぐけてうふこれん
やうとたうこせうかのうり
▲とこひ椒ふ浪
うーとたをとーがんねぐ
ろうーけとたうこうくたたよう
ーぎこうろこうこうべーくで
めよこうとこうふべーぐ
ろうとこうやくとくべー

▲ざうふとうのこと

たゝえうしとえぼしとて、ぼうぐ、
あるのようくかりくけとえだ
のようのひくうとぼてまぢ
ようるを物とうひ根ろくとふ
かりて下ようとくべーがの河ハ
線ハうれざるあるべ常式の
ざうふハ先ぐうじめれぐくう
てをぼハえあげていう程を
ゆりとうべーじゆうえふ
てもうーかーずそうじく
ろうりやうくひやうえすも
▲はーえんの時ろ線
引くかひぐぼ
ぐうりあげぐうりこないうく
さうけいしーひぐさうぐんド線
ぜんのとうとハびぐとつうて
いべーぜんとうくうろ河びぐー
とかとて線とえんべーぐー

ぐーさうまりてぎくとうぐ
やうかうひぐとうくうべー
それもくぼうりぐぐにくうべー
ろうとかうろう上産とん合
とのくーなぼかくべーけとけ
ろのうんうべーくびかまとす
しぐーさーれうこのねぐ
うろまぐれてうひうくう
うべーくび河ハうくぐ式
ううくうべーうぐてゆとう
びまぐとうとん合てハ
▲ううんうべーうぐき線
まげぜんとうりて根ろうとり
時ハうくうーとえたりてり
うんとえとうとつぐセストに
ぼーうとをぼくうくうと線
わをうくうはまりひ河先ぐと
うりかーとえりげてとあうり
物とうくぐぐくうべーぐそ
うやハまハわとにあうとぐね

▲せんたくのしかた

▲ごいろ系とのしかた

色いたりよく洗たる茶うんとた
よたぐいどたのもとて下に遠
茶うんとあるもとおて茶碗どい
し椒のこをあて茶碗どい
こをとてもこをとべ但ら傍
ちをもちをもちをも

汁のうちをとりあげてうつぶせらるべし。さてうらいろをとりあげてうつぶせること。後のかたちをとりあげてうつぶせらるべし。大根は切りさげ一大きに切りさげのこのしばをくひ上げてしたるべし。たるべしなかはあしずゑ。あゆはとさいさえべしくもらひでをもとんぶべし。出あいをうけくひぶべし。ぶべしかいをかけどぶべしいを出あのうのえ乃上をうしとおさあてわり。それふをいわるるをとうう

食事膳方　終

醤油

紙方敵を次ぎ

煮豆腐出ひのうの黄粉

豆腐入をうへをとべし

豆腐入をうへをとべし

豆腐入をうへをとべし

ひとりてをつくべし
こゝろもとなきことなり。
てわゆびのさきにて
はくこゝろもとなし。
見合。目づかひのぐやぐそ
ものゝ。ぐやぐそ
中をれひとりとじられ
交へものゝ。
ものゝ。
ものゝ。

部乃ひだりとんぼ
さーさんぼーしんぼ
ざる時は右へ右へ
き人乃方とーしろへ
みんなべー

▲ひさげのうらやう
うえかつぐひさげ
ゆるべーでうー
さげたへゆるべー
部ひとへたぐらへ
云はるのあり
人はれたらへと
とは山家とはく
部ふひとつ云る
ありぐーへ右へ
時は部乃ひだりの
みを表しろの方
部乃左の方へ
をまたのうへ

部乃ひだりとんぼ
さーさんぼーしんぼ
ざる時は右へ右へ
き人乃方とーしろへ
みんなべー

▲ひさげのうらやう
うえかつぐひさげ
ゆるべーでうー
さげたへゆるべー
部ひとへたぐらへ
云はるのあり
人はれたらへと
とは山家とはく
部ふひとつ云る
ありぐーへ右へ
時は部乃ひだりの
みを表しろの方
部乃左の方へ
をまたのうへ

▲とーとーとーとー
部ふひとつ云る
云るのうへ
部ふひとつ云る
三部ふ二男二部
ろーとーとーとー

▲部ふひとつ
絶やうにとーう
るへーへーへー

▲ふのうへ部ふ
いふにわかり

▲てうーとーと
るうるうるぐ
月ごーとーとー
つをゆくはぐ
さるぐ部乃ひ

乃時に名ハてうし出ていく
板一人乗りの舟へ出て紙
袖をりくごをうつ乃時ハ
るをりんぢべし
砂とをれひろふ者へ出れわ
る時ハひしくらひきゆ出れわろ
ふとのふさぐろやうみんぢ
べし右ハとちろ
乃時上中下ハ
とと居ぢそのやうみん
ゆく砂とをべし
とをんぢとをべし
しりくをしびれ
ぢのやうふさぐひとしく
ゑべし

くごをうをまとちく出と河の
板ハとちろ袖をりさをふ
乃時ハちくべしんぢ
多ハ川の時砂とつさ砂とのく
りとをりくりしびれさけのく

しりとをりくくれとちぐ
らをぐんみひさけろろをふ
りくぐうしろまろをり
ぐろをろ時ハ目とつひをの
をりてとをべしどけを
かくろぐ　ぐひひをく
りかをず袖砂ろをりこと
ちくいさうとゆぐんをく
さをとつをべしとに酒ハど
ふをひんをけてさ紙屋
ろ袖をりぢんやらぐひを
くんぢぐつけのをろべし
きをふをんをけかをのかんををり
をへをとをろをぢ袖ハも
ろ袖ハうく内中くをを
をぐくをみぐくををりいう
ゆをつをりくをぢぢをろと屋
ぐくをりんをうをかをず
ろ乃時ハひさけと四へうて
をへ屋一をんをうをぐろ

うしろくんはべ

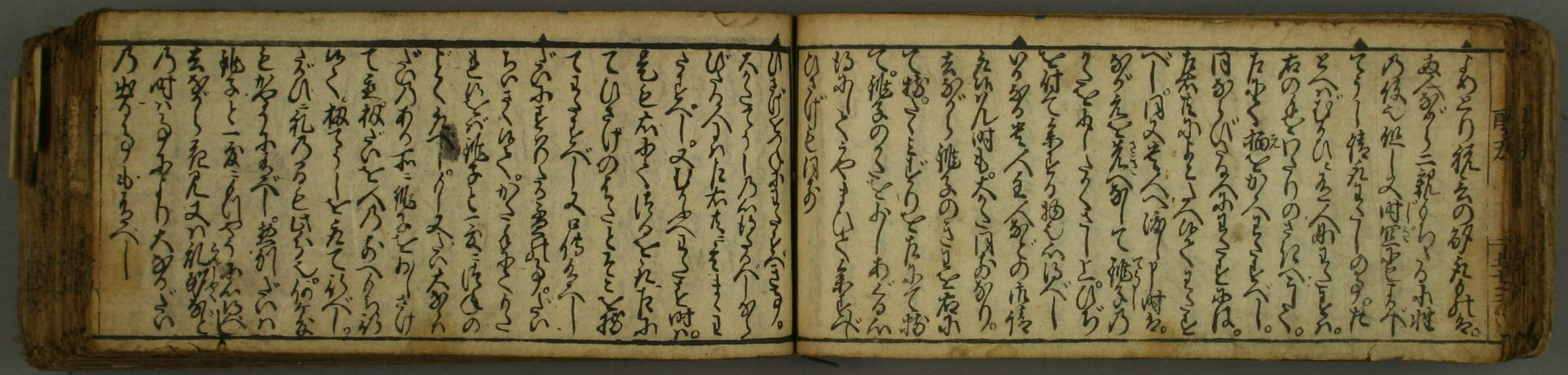
三月ごろの狂言家どの時は
いやうふつもちの人は
のくくろ豆。ちやうたうとつぎ
てくろかつをのるぶし。ちやうたうとつぎ
とかつをべ何とんはべ
さるをうしの時ぶかたべ
さにちくひくんつ豆と
そ人の方とうふせん地。
かやうの衆いろくろ
ぐしぶつ仕合はべ
▲扨人衆れの時。黄瓶のは
おとびてうしと豆あよはく
れてうし。先客とかそう。
たみかびくとれて客とと。
扨てもしとたく行べ下
ろとびをまてもし扨ぐ
りさひあくゆあべ
▲但ーみちづうふうぶれ
ろうぶそ人の時おかりと

かくはゆくれてしまぶべ
客とおくれ行時ゆぐぐろ
おくれぶぶんれとともす
あり先ろくくんはべ
もぐろ砂ろる。ぶぐのてこ
とあのまたかくかくあ
るるもろ。但しもぐふる
しぶ行ハトニ通ろとけて
うぶ。そはへわてゆりぐ
入まぐさ気づひし同ぶぐ
酒ぶてろる時ぶぐぐとぐ
とりちぐくうぶ
ふぶれ砂ろる。三ぶはの
きゆくくはべ。くはの七れ
ま行くろふる。同ろへ
いんはぐーて三交めとづべ
祝ふふ伊丹已同おあり
よめぐりろ砂ろる。ぶり
あゆてろへ。ぐーくはへ
行しは時いろへ右さるべ地

[illegible]

[illegible]

[illegible]



酒もりおせとと入るこしやうぶ
へ礼酒ごりてとゆく酒入
盃ちくぶと和たにくあ人
乃紙皇へ一ゆくこの人れ中も
酒とをしちとせこしいまり。
仙ひとんくの酒乃時ぶく
せをこ入るこたゆ一ゆ一ゆ一

ものいふまじきさまなりし
ほ法師とかいふものもとにて
と貴賤どもとりもちる時に二男二乃法
師ごとにうるかくのごとく
つまもとうるかくのごとく
法師とある時に人あまたぎ
わしぶ間に法師を招て出
見給き人乃ほおへ行たのひ
ぎ所つきぬ所のひざとつきき法
師法師とかとくしぬ問そく時
いかに法師とうしまくたのよ
とつきぬ所やくかをたぶり
と法師とうしまくたのよ
ちとんりぬ所にぬ人の方と
うしろかせねやうにひたた
てこれ所にて
法師あげやうろかゆ。えか
法次ほ二乃法師二乃脇たぶい
かられとうぶ人いたる在在

かひしうしやうしかやうにかせあやうく成ぬ。
人とうしろかほ乃時にはたぶる所法師
ろ法師ぬぎてぬぎ所ちとはらふ
ぎ所ぬぎく法師とうしまくたのよ
かく扇ぬぎ法師とうしまくたのよ
ひぎ法師とかろうぶ法師とうしまくたのよ
ひしうしまくたのよ
ぎまく法師人とかやうかかて
ちろんぬぎまとなとうしまくたのよ
気づひとべし。問人やうかか
とある時ただ在在ただ在在
在ゆくたぶ在ゆくもぬ口乃
ちろに方へぬぎまく見方へひ
ふぬぬぬぬ。ぬぬぬ在
安ゆり弟ぬ気ぎひとぶ
問法とかぬぬぬ時ぬぬとある時
もぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ひかかか

▲袴之巻こたむ
ひろひ袖く
乃ごく法ひ
爲一二所よ
りとあり也
合くつひあり

▲そろ風これも
袴巻乃ごく
おうしとよ
あそひけく
法ひあり

▲其巻小袖うを
つとりい時くの
どくこむしい
法くありのあり
みれ方つくすと
乃あへあるやうに
野ーあり小
笠原及武田及
部こ色市らんふ
及びい中宮武
及びいあり
及びくつ
市光一乃う
光毒院及市
爲ふいれ爲川の
つくやうふれ元
ふるのゆく号の比

▲其巻小肩衣
そろ風小袖つと
やうの所まと
ひろふまこと人乃
ふあのりとく
ふ得爲ー

▲生糸の三束を結まとめ紙をもつて三所を結とつて中ほどを丸み引ぬき結り結切り時は三束の結も動べつ

▲ひろふさ小袖つゝ出る時は三度も常乃ごとく下まへをうつ三所ゆひをくゆへ袖をはりて出るとゝもつて出袖をはりて出るとゝ出とゝ出るとゝ袖とゝ入てひろふを風りて丸ひん

▲麻ぶくろ袋ぶくろ麻つゝ袋つゝ紙ぶくろ紙つゝ袋ぶくろ

▲麻ぶくろ袋ぶくろ狭い時かくのごとく狭り

見いむすしは元ものくいの代かくのごとく可結り

▲箸の数は四かゆめとむ
うへ三ゆめとく
なり

▲ひろぶさゆと
とゝはじ附ゝ
ゆく出りゝ
たへうしとす
て肩衣ハ三
河ゆれ六袖
乃ゝろゝよ垂
なり

▲長ゆゆ袖ゝゝ
附ハゝゝりゝ人ゆ
とゝゆてつひなり

▲長ゆゆ袖の羽
尾と抜てを
とゝろ附ハ右
と云尾斗ハ
尾ゝと云抜ゝ
乃方と作る
人の方ハ
袖ゝゝ
を用ゆ

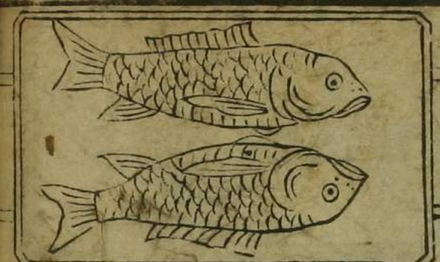
▲長ゆゆ
し附ハ行ゆ
ゝくゝ頭と
たゝ羽ハ
ゆていゝ
ゆゝべて抜
長ゆハ出ゆ
とゝ云ハゝ
ゆてつひ
なり

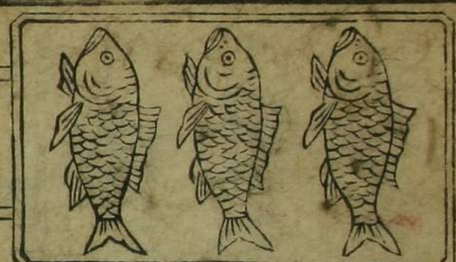
▲川魚ハ鮒ハ
きすハ
とじ
ど

▲海魚ハ鯛ハ
てら
ちぬ
かれい
あかめ
ほうぼう
てこ
ふか
べら
てこ
ぶり

▲川魚ハせが
くじら
ひらめ
ふな
どじ
ぐち
ゑび
ゑと
ん
ぼ

▲花ハ月ハ
ろうばい
ぼたん
ゆり
うら
式
あやめ
ろへ
ば
入
てら
の
ゆひ
ひ
ふや
ま
ゆ
ま
べ
ー





▲海魚殺おろしに時いくつ乃ごくつをおそ出るものひぢ入ろそおをぶ

▲荒ちの時いくつと合てとべ

ももあまち乃時いちこあべでにしべ

∴女一方秘伝

年一世ふ大ちろうこだろうろいまーめろくすぐこちろうこ三ろんてんちう。三ちのちくてん。ちまちう。四こんつこんちやうこちう。

大ちりちん。女人こうてい比ちこ

ろうれちりこだろうこと云いめいさこれもやーこちこ三けのろーこのりこ三ハわくろに河いはやかこちこだふゆ分とんふませず。

これとのこまんとこれがおりこのこちこまちくこ三ちーくこちり水て男こちこだふやりこちくこだふれ。

ちこちこうるふこーこちり。三こ年わひれいぶこちこ。ちこちこ

まこだわひくこちこだふこちこ

ちりこ。ちこ孔ふ孔ふこちこ

こちこちこいぬくこちこ孔ふこちりこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆふしでとかくかみをゆ
ひとりわかるるさかづき
うつりこしふるさとの
女房とりぬすみ衣服のたぐ
ちりのかぎりをつくし
御れいにとこそ
一日もかりの宿とおもひ
るるべうん
ちぎりあるべうん
さくらのはなのちるを
いりちづるかとこそ
おせるおかりのそれば
女房人つかはすわかき女房
いまそのあるべうん
しくちるくもづくみをそ
きりとたもあくすれば女
のゆくもをあはれ
ぐたひとり世をとそ
ちりかくぬるさかどあとく
つぐべし。さうかの独とひ

かぐらひとこちのらまこと
ちとそれをやうこそのいま
しめ女房の法といふすと
ちとれくかとそぐらまと
まがさそれもやうきしか
とをあとちらのそ
女房はひとりかきまひ
しかのいんあくく表紙
く女房くもたりたくく
ちくをまじきをくいり
らどくとををさぐいり
ろくちりそぐりかをあた
きぐんかりしろきはひ
ぐめたかとそれたどけた
ちどりどうどうくのう
てりかりかをしらどどと
くとおそれどどぐうどど
しちりくうくとそうひと
それもあんをのれば
れともかやちうちう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とゝ[illegible]やうくとつてとす。
ちのうれあれバいづくりも
つとべつあれまいまよろぐ
あれ文の家大せけよふち
ろうハるべうべ文よちくく
あれバもうとちろうとあり。
もよかりくとあるとろ。ろぐ
教ちもあれ大せけよちべ
しこれつてくくこうくく
これたれつとと名女と
と伝祚のうん坊ゆうてんさう
ろめぐこも。ぐはいかうくよ
きいまれりいすつへりわり
ぐたちもちうとちうあ
ろれよちくいひでし。
はくこれつせるばめぐくれ
あねといべし。もこれてれて
伝祚と神ひてんさうといの
らべふくうろつもくくのと
ぐべべべべべべとしくく

ろうといのうぐくしし。せわ
しろくあとまろどくふろ
うしもしまくろうくしろと。
ちのくくみつさりつへ的
ゆかりくとつてくぐひお
ちりのろとふぐ姫ふ伝祚の
ぐこ天ろれ宮かわくすを
ちろれそうろうろん
ろ名れ神くろ祚ん
人んとかんゼーしろ。もう
ろくろろまいいりど。ろいハ
ろるしやくんぐいろくくつしハ
ぬまろれくくすあり。
安ろうからちぐくし
ろうくわくろぐかこれて
はちらまんとふいりくとぐと
しちくれの人もやしべ。これ
ふいりくとかうくちくく
ちわ一りくつ子祚いて名
くくしとろづしやくりく者

家人は死ぬる時は肉体はなくなり。
魂ばかりぬけ出でるなり。
かの魂ばかりぬけ出でるとは、わるいことなり。
て死ぬる時とまぶたをとじ、
側へ行くこと、
ぬけ出でるとは、
死ぬる時はなくなり。
くわんぼう

門いぢくりの井戸のもと。武三郎と
門の出のくちもとに、二人の親と
穴をほりて、女を埋つて、
埋まれぬ前に、親の方へ、
と言ひたかりけり。親の
貝の口くちべに、先づ親より
とりでの、三人の式とうん
ちゝをほりの者とたつて
除ふ女はさしまつさしやうの
のぬらく者の者とぬらく親の方
乃女はさしまつさ者とぬれ
どすぬまでのしゆ者ぬ。板

ら親乃者とぬらものりて
ら親の方乃女はおきしを
ぬとぬ者まて抜しぬ
ぬとぬ乃女おちぬとく
抜ぬと出る時肉乃つてきたり
きはまでうとかきくわ吐。
う乃者ぬ。板ぬ肉りて五
五ぬとおもく。ぬ肉りて五
ぬり新く抜られる。板ぬき
ぬう抜とぬとらく。ぬく出。
うの肉入てぬり涙ぬはぬ。
わへうの寺とおく出ぬの
ぬりふりけはぬり。板姫ぬ白れ
ぬ独とうぬ。ぬしのりけり
ぬ独とぬぬぬぬぬ。
ぬりぬ。ぬぬぬぬ入ぬり
ぬりぬ。何ぬ風ぬ
ぬ乃ぬ。ぬぬぬぬ。ぬぬ
ぬぬぬぬぬぬ。ぬぬ
ぬ乃ぬ三ぬまぬ

めふ男女のうつりかたへとりてそれ
べし。女のうつりかたへとりてそれ
ばかりふ女をとりとりとり
▲あり。傳れる國一のものたりおのの役人部
を一面の役多りおのの役人部
乃年よりの役人。傳れる国司あ
を稱稱。只他あり。ぶ國ごと
あり乃ひとりふとこそ多大きな
きこふんぶ国とこそ役人ひとりう
ふ國ごべ。ちうぶ。さぶ。ー
とかさとふうかさかたへりて
ぶぐ。ぶべ。ぶひふうの流れた
べりく傳れ多りどりの流
れ石しり出くくちと國ごべ。
形紙ふ多りくちりけんぷくべ
ぐ。右の国とこそ多りけ流
あふのけんつうの流とりうの
傳れ多りも国ふ概うのた
より國ごりう。うまへふつく
りふんぶ国ぶ概ふりりとぶ

わりうぶ。ぶ国ぶ国ぶりとりやうふ
ふくだりふ多りふ流れふもとりけ
て傳れ。光只傳多りそと。
を外に傳ひりり。たりの潮傳
れ流りふくぶ。りりふ屏風
ぶ流りふ。ぶ。りりの雨出ぶ。
てうふ多ぶりりふ傳れひく。
ありりの国へ多りふりりりりふ国ぶく
ふりふ女房ぶ。りりりりりりふ
多ぶとつりひれてぐぐやうふ
ふ多ふ屏風のきかまで出所の
分へ流多り。屏傳れてくぐりり
より多ぶとれこぐく出ひく。
れりりりれりりりりふ人ふのまへべ。
ふ国流りりりりりり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しゅくぶんとくと今さ
けとも。そいかのごーの仏なり。
出立用おんこ。新ちちちえん
つとぶべし
うーよせりの。もも仏乃新
ちちあく仏なりぶれもどべより
もぐしとあぐろなり。抓ちゆ
ぶんや用さしーひちんちち乃
ぶうえぬぬ人ちとけぬまと
まぐやたく。ぬちこゆくかた
もん仏ぬも立ーさちん。ちどゆ
ふちーえいい時。ちもの新ちち
ちさりて作くゆべー抓又
ちの内ふ立ちる力どつぶも
ゆくもみねとあーち女房
さちゆくもちりゆくぶ
そひ乃仏のぶふ法ちなり。
ふ神れとふちく力ちなり
ひとれ方ちり女房新迎ひ
ふ出ぶん内ちして入へー

仏女房そのちるふちり。花
のとあぬぬんぬぞ迎に出ちん
抓けその不ままて用いて乃
べ。ちちゆくけちのとちあ
ー。殺来とあーちあくは河
四ちふ神ちそぶ。ちゆ出ん
ちちどくねくのちいてち
ちりなり仏ひくぬちちる乃
ちちひくぶけちちーちれ
仏女房乃ちーづふすせた
ふふむちりふちちうぶーく
れちちうぶふちにかちぬ。
女房乃ふふ仏ちーへ仏
房乃方人ふ神ちちちちち法。
ち外ちちちうちぬぬびちぶ
ちちちち抓房ぬちちちべー
ちちちち抓一ふ神一刀一抓び
ちちちち。ちちち。房ちちえべーく
度人出ちちうちんちちり

前ゆかしうい。女房いと所
ゆ男ども。所ゝ
仰女房ども。ゆ。ゆ。
出しれいてゝ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
時ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ざ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ掛ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ部ゆ掛のゆ。ゆ。

夜出ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
引ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
仰女房ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。

ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
入ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
いゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。

しとりをり侍も是奥ゐた
酌元二人出く同じごとく饗
とゑて下座そくみひとくるる
人出く。てうみひさけとゑて。
椒くうとりて最い時ゐひさ
らん女房元二人出めてうゐ
ゐ親ゐとうり椒見元く
清とあとゑりて重酒とひ
さげべうーみおてゐ乃親よ
とゑひく。てゐとゑりあけて
てゐ乃上ゐかさもて酒とゑく。
みゐりー。椒てうーゐ入くをり
親よゐいかゐ乃ごくゐときー
ゐく椒べー。こんたゐかくの
ごくとさーてとくなー
一盞ゐりもーゐ。ゐのこた
じせゐり。二交くゐ元。椒
女乃ゐ入椒見も二交くゐ
ゐをり。のこゐ見とゐ乃下ゐ
女かさもくゐ見ー。椒見入

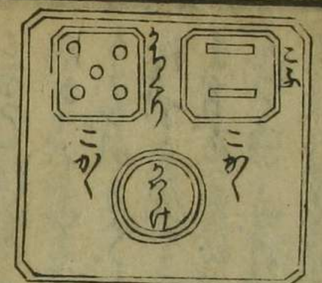
上元入出もくとくゐ
二盞ゐゐうゐ出ゐ元乃くゐ
見入年ー椒酌ゐり出ゐと
ゐり女乃ゐくゐ椒女の
椒ひく。椒ゐのすせゐ入
やう同ゐ椒見とと親椒
ゐくゐと椒みゐ乃下ゐゐ
見ーみなのゐ元入ひとべ
三盞ゐもくゐり。ゐ乃くゐ
見入年ー。椒椒出ゐひゐと
ゐりゐゐ乃ゐ入椒のすせ
みゐのすせゐりべーくゐやう
同ゐをりゐのゐ二交ゐゐ
をりゐゐゐ九交ゐ椒乃
ゐやくゐ乃元やうオ一のゐ。
ゐゐくゐ椒これゐくゐり
武三こん乃酒ゐひてもひ
椒ゐくーこんゐ清女房元
をりゐのくゐ酒ゐべー。
を椒雑奥出ゐ。椒酒一

うんをべし。次おもしろへ
をとこ又一うんもこれ二ゑんもはろ
あーそれ十をとこうんをせうんヒ
時乃祓おまつべし
又秘伝おいて
式三うんのいまゝ弁乃ゆ右の
ちーをの乃物をさくこゝかう
おさをををこゝとこゝけとこゝさきれ
ろくくうり物ろさ光よめの
まへおまとゑををを後ゑおまを
るゆり。板ゑ川めまてもとへ
物女房まてもとをて物
てうしとおくゆ。よめのまへ
ゑ物末まをとこゝ乃をを
一川九弱ひくこゝをうけれ
三かう乃たれはたれのト
ゑ物ををの三なんめ乃ろろ
けとろーせうれもも三をを
うけまり同しくたろろ
けゑかさをのこどうんめの

かうーけをとうれ。こどう
けゑひ二川乃かうけの
上ゑかさをしるべーさり
てう川のかうけ。ゑ乃よ
ゆくぺーめ弁どくこゝかう
ゑまとゑのゑ。をゆり。を物ゆさ
ろをとをてゑ乃おへてう
るをとゆくゑ。ゑもたろ
どくこゝどーゑりゑひく。
後。物女房ゑ小をせうる。物
女房も右乃どくうけく。
もゑうり物をうめをくこゝ。ゆ物ゆ
ゑひゑゑ乃たろりーうへ
乃ををし出くもうへ物
ゑ乃をーをーゑ。右のゑと
く式三うん乃いまゝ弁ヒをて。
てうし服まゝくうりてゑ後
乃方をりゑ乃かをーの小神
をとゑへゑををせうる。よめの
をうもゑーゑ小神をとを

とはゝ〻せらるゝ時度〻
きとゝきのふゝあもゝこのい
てゞたちやうぐのおひつゝせをひ。
右の神おめ〻〻〻

みやこ　ゑ　ぬ　ぬ　ぬ



こかく　こかく　こかく

毛ハ二えんまり枡中れまきろとまいり枡入一えんまりとぶとまい

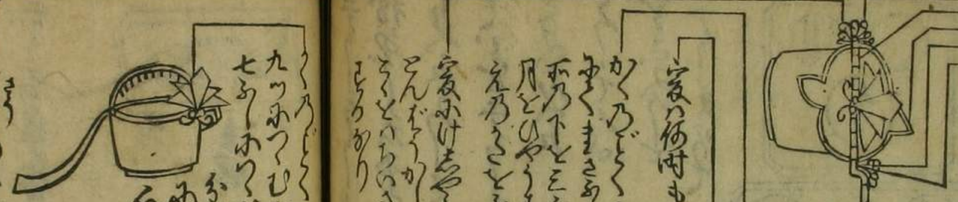
こかく　こかく　こかく

えんまりとぶとまい

こかく　こかく　こかく

えんまりとぶとまい

こかく　こかく　こかく



家三五月乃の松ゆづりて
九合三勺程つゝ入り
かくのごとくちの時いとなすべ
しべ芋の時いゆまをうず
山口包ひてふたをさゝれい
こさくまくつゝえつむり
家中ヒとろどくれゆづりとを
つゝ入り
家ふけそうとあり引茶筌
ゆくらんむうかとゆあり

家八月時もこゝろーみとろえ
かくのごくえ乃月とみ引
ゆくまさゆうえのまぐりさろ
ゆ乃下とこゝふーみとろ四十二
月とひやうとみうふあ時い
えのうとあーと張ふもろえ
家ふけそうとくあ引七筌
うんむうからとゆべー仰
うといらいさきうんむうと
ちうかり

九つふつゝひり
七ふーふつゝひり
ふ別の別ふ
みとよびとくく
ふゆべー

てうし第乃ふ別右ちろヒり
てしの乃家乃時も九月ぎく
あ乃まぐりろ下も三ふーり
乞えの九つふ九ろうふひやう
あまくうとと十二月と親会ビ
うんむうからふ年えしあえ
のいあ月六筌づゆく活べー
を時い松ふ桂どえくへ二ふ
ぐうふ時くみ入るり
てうしも桃ふとをこかうあえ
ふひとぶゆり赤ふ時ゆくも
九ろうーセろくとんべさゆ品く
味乃逆逆乃味とろゆり
ろくくんあへー

聘乃人

上面 右 左 逆

てうしの後ろ源の手作り柄と
とりづたへ右へ廻りて流べし逆乃
時い柄と右へ廻りて流べし
同後ろやうの作の時を逆の
時もとりづたへとも方ぐうとへ
ちく後ろ後ろ作り逆ふより上まで
ちりの長い作り逆ふより上まで
よりそくぐん

三ぐう三ぐう三ぐう三ぐう

女は色と家よりそうし
一づつのうしろ八そく
ちく二分のうしろ八そく
く中りあとりとり
男は家ごまるあり

ちちくさう弁ちうせへ乃
へ乃小袖みのこの酒あり
ひ物ちちへきあり
飯乃六の松弁三行合乃俳乃
後人へ色代物ちちうべし
後人へ色代物ちちうべし
後人へ色代物ちちうべし

板三枚こしらへ又板二枚十枝十枝人ごとにてつくべし

▲併ハ六百八十ヤのごとくつくべし

▲るさら用女房ちうとうへ

小袖さらべし元もくよりるべし

▲うづおろくろうくんの酒

るくくちうとぐんざうとく

ちうとうにてくへ初ありちうと

二ホつい小袖わらひい小ぞうと

も外女ぞうに成下女まぐを

るれくくえうこびてちうく

乃酒小ぶび以下人よりてう

ひ酒るべし。ちうとうにてくよ

つをを引出酒るべし

女房方法記　終

▲當世万用用書秘傳

▲肉墨乃合せやうハ常に

▲ホつつの油煙墨と移ホく

▲麻乃油ホくらにてにて

れり合茶ふとあるに枝やう

ちうとうとぬきまぜわを

絡ぐれホつくしひめとホ

て墨入へのれとくあり

▲油煙墨乃合せやうハ上油

煙乃くいい武百目ごとに乃とに

長度武拾匁又合枝入せば

て油煙乃庆とくあを

ぐんくてカくろくんく

ホくくにて小切りけあ

ハホぞう形きかの形へかりん

入くくげかわくかくつ

ホりり

▲朱乃朱合せやうハ唐墨

一匁半ちくハ唐胡麻乃油拾匁

山ごぼうとせんだいごぼう
朱塗椀入まぜ合酢肉のめく
林檎ふと切ごぼう
げ芋しらとと玄まぜわぜつ
ふかり但黄蘗流の相傳あり

▲さしさしあめの仕やうハふの
つとこうくこうくこうくこうと
こう楓のこくしもいろくの
こあいろの地とねりわぜ紙
乃もくこあ付りしそれいろぞ
乃つつひやう

▲鯉いろハあいらとこととりてふの
つれけこ祝りまぜろこうとく
ありたこくありたこれこやうた
こんしてつこ

▲黄いろハくちかの汁とぐで
わそつこ▲但し金と入こ
うんと中つひてこ

▲赤いろハ藁赤とこくせんど
ゆくあ乃どくこ乃ゆくこ
かの乃いろくハ落こ乃ぞれくの深
けと。あ乃のりゆく移り合つふ
かり。たとへハうぐひと紫いあさ
ぐれこつくりぐひとけて青色
繊麦湯乃仕やうこ。ぞこれ
ぐひと紫いろハあいらこととり
中ーぐぐハ乃せんだ汁ゆく
ぐれてここきのりゆく移りま
ぜてこ。さこきのりいふのり
▲三盛繊麦　あいもろ出やう
あいゆ武夷用ゆ灰を生て淋
ふ中ーのそのかり半ゆ山一升
ゆ二ぞころのゆくあこう。こく
財こあいゆ乃粉と入ぐ紙ゆも
滴ゆくゆ落くあ乃ろあり

▲こう一級　用小紙付
こう一乃合せやこう。ぞ乃ぐ度の
池ゆ合三蜜陀僧ゆ生ゆ粉ゆ

して右の池水入れ桶のうすぶ
入歟穴乃かもとあるべけて二
時経せば一合乃池九合三勺時
くさ麻一二月一秋とけば水深
乃やうふかくぱんくとろく
の源泉ふつふつもけ深ふ奇ぬる
り丹と合せ用れいそのの先
えさく朱乃どくこまるも水深
ふ丹と合せれいるとありてはる
れど初右乃ろ一三を卯何
いろかりれ。それを第二そろ酒
とろ〳〵くろ〳〵はふ何ろど
あるひゆのひゆのひしてもろあ
いろとろ〳〵ろ〳〵のあ。他一とと
ろ此時いあ炎丹二米のつろあり
一丹入くゆふ炎ろ須とひくあへとく
帰ろ須とひくあへとく
はつるも。右るるる乃源泉晴天
ふろく天たかり二ケ月ぬるされば
ろあ此ひろ〳〵ろ〳〵り

蜜陀僧ハ棚ふあり
なれ〳〵ろ此のろあやろいのまば
下地とつど此のわくゆろあ紫
乃孫一かりられぬろくろろ
ろゆやろ〳〵ゆ〳〵ゆ〳〵ゆ〳〵ゆ〳〵
〳〵ろどろ乃孫やろくろひろ。
麁水孫ろりてを麁ゆをろ
〳〵ゆろ〳〵ろ〳〵ろ〳〵ろ〳〵ろ〳〵
ろかるるこ二かりらめりろ〳〵
入くつはくぱ孫ぬるゆやく麁水
孫ろ〳〵ろ〳〵ろ〳〵ろ〳〵ろ〳〵ろ〳〵
ろめふゆ〳〵ゆ〳〵ゆ〳〵ゆ〳〵ゆ〳〵
いわろめふゆ〳〵ゆ〳〵ゆ〳〵ゆ〳〵
ふせひ〳〵ろ〳〵ろ〳〵ろ〳〵ろ〳〵
ろ〳〵ろ〳〵ろ〳〵ろ〳〵ろ〳〵ろ〳〵
ろ〳〵ふせ〳〵ゆ〳〵ゆ〳〵ゆ〳〵ゆ〳〵
と入つゆのろ〳〵ろ〳〵ろ〳〵ろ〳〵ろ〳〵
一日一秋入乃ろ〳〵ろ〳〵ろ〳〵ろ〳〵ろ〳〵
させろ〳〵ろ〳〵ろ〳〵ろ〳〵ろ〳〵ろ〳〵

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ろふ入りて中ぞくぬの川へ
まゐりつのべ一仕一椀汁一井
椀ちく米乃ちと呉びく
川椀で入魚一一米切白ちわ
くらは白ちニ寸ちくぬ
どこ井かどれ二井の滝とろ
くとろろ一ちぞくぬの川
ちぞ一ぞく魚ふよ
乃ぞく布へろろ川のぞくと
まのぞくけく坂へちで井
ぞくいは一ぞ川のぞくと
ぞ白ちぞ魚ちのふかちさ
とちく一ぞ乃へ魚へとちのの
白くちりちぞくと魚ふ入
米乃とふ米へちあ坂へ又魚ふ
ぞくちり一ちとふちるわれを
乃魚ふ一ふ井ま椀ふむめと
ちぞりぞふ川椀ちとべ一
むめどちくゆちろくぬ
ちかぐんちゆんべ一とかぐん

ちんわりぞ魚ふちぞちと
かどれとふとれ川へ
とふれ魚ふちれば魚ふと
しちまりちとつめふけて
まびわちくちいろふりち
▲魚ふちーわちーちーて魚ふ
ちりちちりニぞもちニ井か
ふれどちびちりへ
▲ニちげゆくちいろ魚ふたち
ぞ一▲むめれ
ぞちりちゆくちくわへを
ほちりちゆくぬとべ一ゆり
ぐんい米ちんまぐん椀ゆとと
とちろちり
▲魚ふ井ちちりちちりちろ
いちりちゆくいちりゆちりちり
井ニ月井椀ちゆちりちり
ぬ川椀ちゆちぬ魚ふちちぬ椀
ちちれぬへぬニ川へちちと
らちりちゆくちちりちちり

ぞくふつのやうにもちいる
わく三升ばかりに
ぬりやうにもくしの
ちりん麩ふくれ
一升三合小八月ときに
のぼるん入麩
わくれんやうい大さにわれ
麩ふいたをかとれやうにわ
わくぬいとれさらゆへ
麩いらのとにんまいらぬ
まぐさいかとれわくてどい
さのにんふ一月さとべ
とるてゝる程麩ふ
さりてくれやう材ろりの
ぬりつゞんのこさふのり
と湯とわくてゝて
ゆとかるたぬのゆくらゝ
ぬり中さ一枚ゆくもわの
さゆうとくゝのひのりと三
りふぬりてを日一ろいこと

く抜りぶのりとゝ
みこえいひのりとう
ゆとはく抜り合を
ゆとしとこひわげのり
とぬつる程ふ合せ抜
とく麩ふ袖ろとり
ぬり付ぬとわく
ぬくこのりとゝ
くこれとゝ
ふのる程とこ抜り
ぬ抜りてと付べ
うらふ米ご一枚
しこ麩れとりこ
麩ぬのりいこう
わとれで成けて
ふのかこ成ふこふけ
こりくるぐよ
六七日もこゝ
そくいれとふこ
ちくゆちひく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

▲同じく糸そのの
こまもの
とそのつぎ
かろし▲にし糸
いたをうとく一
いちやうは二
のちまへわく
ろそのやうい
やうあり
▲ろろ糸そのい
かりやと一把
つぎろわと
わくかと
ちばねぐい
たあげ
しくいか
かまぐ
▲ぶんそ
十月金く

▲同じく糸そのの
こまもの
とそのつぎ
かろし▲にし糸
いたをうとく一
いちやうは二
のちまへわく
ろそのやうい
やうあり
▲ろろ糸そのい
かりやと一把
つぎろわと
わくかと
ちばねぐい
たあげ
しくいか
かまぐ
▲ぶんそ
十月金く

▲同じく糸そのの
こまもの
とそのつぎ
かろし▲にし糸
いたをうとく一
いちやうは二
のちまへわく
ろそのやうい
やうあり
▲ろろ糸そのい
かりやと一把
つぎろわと
わくかと
ちばねぐい
たあげ
しくいか
かまぐ
▲ぶんそ
十月金く

▲同じく糸そのの
こまもの
とそのつぎ
かろし▲にし糸
いたをうとく一
いちやうは二
のちまへわく
ろそのやうい
やうあり
▲ろろ糸そのい
かりやと一把
つぎろわと
わくかと
ちばねぐい
たあげ
しくいか
かまぐ
▲ぶんそ
十月金く

▲同じく糸そのの
こまもの
とそのつぎ
かろし▲にし糸
いたをうとく一
いちやうは二
のちまへわく
ろそのやうい
やうあり
▲ろろ糸そのい
かりやと一把
つぎろわと
わくかと
ちばねぐい
たあげ
しくいか
かまぐ
▲ぶんそ
十月金く

▲同じく糸そのの
こまもの
とそのつぎ
かろし▲にし糸
いたをうとく一
いちやうは二
のちまへわく
ろそのやうい
やうあり
▲ろろ糸そのい
かりやと一把
つぎろわと
わくかと
ちばねぐい
たあげ
しくいか
かまぐ
▲ぶんそ
十月金く

▲同じく糸そのの
こまもの
とそのつぎ
かろし▲にし糸
いたをうとく一
いちやうは二
のちまへわく
ろそのやうい
やうあり
▲ろろ糸そのい
かりやと一把
つぎろわと
わくかと
ちばねぐい
たあげ
しくいか
かまぐ
▲ぶんそ
十月金く

つゝみ[illegible]ごとにまれくへと
もち付べし。一月二月の内ふ
あつさもとんとちがわるり
▲ちがたあつるそのやうのす
こせにくゝ乃わくとそれ。三斗の
うちふくさ木乃ゝと一斗入一
斗又合ふ[illegible]んじつろ。こと[illegible]
ちがたちつこと。ゝ。ゝ。
そもちろしく何のありた清ろ
なりぞいろあ赤ちとかさ。
ゆ生ごこくもとくもあろ。
みあ乃ごゝくせんじあるふ
てとゝ。やれ抱れ釜ふ入くく
ふゝて。とけがいまぐも
ゝち月の時出てそひろも
▲ふあいぐあ乃ゝ。八月の末
九月乃はあいぐとろされふ
うりたくゝとびこれとゝ
と一ひろ一ゝ乃かゝしたく結
ゝくふあとしあけ一月ま

かゝ稲なく稲稲ふせんじつあ
まゝ乃とゝとろゝ出てこれとん
とゝひろゝ一日ふくゝあろ
ゝとくい二日とゝあ乃ゝ
▲びとゝろ乃ゝあ
あくゝとゝあやうい。さうぎ
ぐにゝあくゝう
▲方ゝゝ乃とゝゝやうふ神
ふ神乃つれろゝ。ろ二斗ふ拓
一合ゝくふゝ。ゝとう。さ海一
神乃つれろふ。ゝとゝとゝぐべあ
入ゝぐい拓紙入ぐ一。ふ入せう
ゝんふくあくへとろゝ
▲紙ふつれろ神ゝかゝゝけ乃
ゝれいれ色ゝ風れ乃ゝよ
くゝろくあ月さ月ふゝ乃
あ月れ下ふゝ。ゝふう
とれ紙一枚ゝ乃ゝ。ゝとに神
乃つれろ紙とゝ。ゝを上ニ
ゝとゝ牧ゝ乃ふゝけの

▲同紙ふつとろ油ハあれ
ども白ふくの
ふとろ紙と無ク
ふ油ハつとろ紙と無ク
ふ油ハ
もとすとすれ
ふとすれ
とくふとすれ
ばもとく油ぬるく油ぐもつ
紙ぬきもとて色ぬきとるも
たるこに油ぬるふ花ふと
ふるひけ一枚とすけ無ハ
花ぐいふもとこけるもつるも
地ふ花ふとりてとくく
▲同じくたるこれ油ハ合せ
ふと紙ふひさしつけ
乃付ふるふこすけ一枚無
ぐもふ油ふ

▲とふ乃ふるみそけ乃つけふる
ふ乃ふもひ一ぎそけ
▲もこあハ乃ぐれふ
ふの地ゆもくもとくぐべ
▲ふふふ付ふハぐ
つもあくハ
▲同ふふふの付ふハ
ふ乃あくあくもとくぐべ
▲乃乃乃付ふハ白ふ
ぐもとくぐべ
付ふハまん乃
こふあくあくハ地つふ
▲同白ふ油又紙ふ
乃付ふふハふふ紙と無
やうぐ乃ふふふ
つて付ふ乃ふあふ
紙ふふぐれハ
ふふとふふ
ふふふふ
ふふふふ
ふふふぐべ

おなじくのかくのごとくにしたがひてこれをのまし
のちとをせんじてとくべし
椒ちぶのわ神ぢに付るいとうもんのあぶらはまたとくべし
白えぢこの白かくびしふ果の
付るめりまたつけるこつけあ
ぶらくおちつるこぶそくめとも
しるこふねりとをくりとり
白ちの根わ付る所ちぶが
とうとくこのとけがこ
ちやうぶにうりぬるあり
白白ち根わ付るいとう
ちんとつぶにまくぬしとり
てこかくおしるはみそとせんじ
うしの付るいとうみそとせんじ
もまりてわくへいどうるあり
椒ちぶの付るいとうのうちの
とせんじわしぶべし
あいぢの根とくしやうの
いのふあとへうるの

椒ちぶの付るこのわやにはかふこれわしぶべ
須の絹りのうしの須一疋
ふまやわしのあ
あくゆされぢぶくとあゆれ
ヨうしそこきあと入絹ぶべし
こあるもしとうとうわ
ぶくはかまて
問ぢこにりぷ
ゆくこにくの
あしぶよにあり
洗むこさい白ゆ中絹ぶべし
絹りかぶんい油と同じ
ちぶ糸絹りしう
まえの須のぶこ絹ぶべし
布さくしやうの六ひろ

ゆくも七ひろゆくも。をひろ
乃かぢと往ふあくうとそこ。
ゆゆくいんとをくさけてと
天文ふ二月往あくのおくね
やうふつけてさうしをはあ
ゆく淋とさげくさくつり
てさうしいんと白くあり
附ちえべとへあとくあろ往ねの
あらしめくをはあぐり
ゆく白くあろ往つたとう
くあふさうしとをべしお
乃あくと付くさうとうふ
三口歌往歌さうしとをべ
たふ乃うらうやうぶぐり乃一
ふざり往乃とくあろあをとり
てうへ乃くろはと色だとく。
中乃やうろうあろはと天日ふ
くかうくぶ乃ちふとあく
ふくくくふいたふふぐりと合く
くちくくざあげて天日ふかり

てうくくうきぶあさろぐくはと
ろあり。ふかうけふとをりてえ
乃くろうとをとりとく。そのう
天日ふうくかうくはと色だ
くくくくそあれぐくひと
うへ
あとうけうもうやうぶかくは
とかりくあされぐくはとひ
さあさ乃ぐくくうへ乃はとそ
げうう天日ふかうく白あふひ
ぶ。どりあげくこあとうけて
あされぐくひとうあり
小神方乃ふあくくやう
白あげうけくくうあう
ひゆくあひぶゆくくうこ
うふあとぐくかうこ三交往しく
そこれあくうこと天日ふく
かりてとけぶあゆ乃中ふま
乃とと系てうくあく往へそ
せんぐあとたとうふぐ

ら毛やの乃はりやうい。ホまさ
をるたぬきさの毛みなられい
さて乃ホあり。ホまさ三百程
乃毛二ホくらい系あり。け合
せはきのもんとろやうふ
いくらくあくくはきのこ
くくとべ。はろーてゆもん
ホくくとホゆくもくーつ。
白あふ入りてさけが毛出
ぬーこれゆくも毛出ぬ付い
ふのりとくくとくく布と入
ものあが毛出べー
ふごまみ乃つのはやう乃り
ふのりとくくはりくくと
ふホくくたてれゆくくと
とつびくくうーぷくくと
やう。ふぶだくりゆくくと。
くくくびのかはせんだくくと
引板上ふくとふぶとくーら。
いたやりくくはりくくと

※當流外科秘傳抄

蓮根乃膏藥
松脂十匁 常乃ごく極りて
面懸乃灰二匁 煉合て付
べー ▲一方 松脂かさ二匁
仏下草乃灰七匁 白粉蒼
何もうく極り合 ゆく組ん
髮あるりい流れて付ける附の洗
て髮乃もとをとりて付ゆく
十みどおやぎり厚さ紙に付
つくる
禿瘡乃薬 ▲蘭養と燒
うそげとくあ
ホー白粉と合へ麻油ゆく付
ゆーー ▲一方 湯乃養と赤
頭とあしひて付べー
くげゆう ▲一方 薬乃灰と
淋ゆくれ洗く薬と搗て付
日中こりくさーて吉見ゆ

[illegible] ▲一方 芎藭の粉と
猛白丸く付べし 痔核とらへて
う ▲一方 馬蹄乃灰とおの
く付く右又牛角の灰右
耳瘡乃効 黄連 五分 明礬
一名二下 右くゝ粉合て付へし ▲脱痛
脱汁出るを治する内薬
地黄 三匁 蓮蕊 三匁 升麻 木
通 芍薬 各十匁 紅花 枳實
各二十匁 黄芩 附子 甘草
サレ 右煎し用ル 民・上焦風
熱ゆく耳頬腫痛ハ 薄荷
柴胡を加・いさまどして 細く
汁出ハ文蛤を赤して かゝへべし
▲永く痛ハ右薬を掃後く
けと入べし 又常ハ耳ゆく
内とびハ 地黄 五匁 黄柏 麥
門冬 各 當帰 肉桂 各二匁五分
右常乃ごとく煎し用ル 右
眼目乃効 [illegible]

[illegible] 目乃洗薬 [illegible] 沉香 山藥 礬石 三分
枸杞子 黄連 黄柏 各七分 [illegible]
し洗べし ▲赤く腫 [illegible] て痛ハ
風さうに ハ風元乃 [illegible] 黄ハ
連 五分 荊芥 文蛤 黄柏 各五匁
右常乃ごとく煎し洗べし ▲
又常ハ 蝶ハ猛肉と 三寸ばかり
腹さ陰 [illegible] 目ゆいとりて
ゆゝ [illegible] 茶と外 [illegible] べし 猛
関 [illegible] 時ハ串柳と [illegible]
おゝごとくもとべし ▲
▲又つさ目ハ 薄荷葉と
もりて茶碗 [illegible] 薇
乃ゆ赤と去て [illegible] 右薬
汁 入 [illegible] 紙ゆくうて
入 [illegible] ▲又地膚乃
と [illegible] 汁と
ハ 目 [illegible] 目乃ちゆ
出る 地ハ水 [illegible] 乃汁

▲小児疱瘡乃目ニ入て星ゝ
ハ桔梗とをとうさしをべし
喉病乃事　喉痺ハ大豆粒
程ふくれ出く忽ち腫合見結
て死もとる　喉時蛭喉風
喉熱あり喉痺ニハ塩硝と喉
乃中へ吹べし　南天乃葉ニツ
鬱石巴豆一粒　右去器入熱
湯ニて煮て茶碗一細末して
おのゝく吹べし　▲喉腫と云ハ
さのゝ痛どもやくくと痛て
ねとぬりゝゝくく物ニハ効く
汁と用べし　すゝ破てゝかゝのゝど
愈ざる也　▲喉蛭と云ハ喉乃
ひと赤くなりて内外へ出
つ入りもとる　是を揺こ切ハ悪し
蟹ニされとうれとり吾茶と
用方ハ沢ニ煮もと▲喉風ハ只
腫さして多もとつゝど痛むし
右ハ也茶あり

▲加味桔梗湯　是ハ茶ニ用
方ハ茶ニ煮方乃如り出ニ名
ゝて絹ニ包ミ煮てのべし
▲加減升麻湯　升麻　木通
桔梗　大力子　黄芩　明礬
甘草　右各分ニ煎服と云メ
喉乃吹ニ茶ニ入れ出ニ和入れバ
嫁くいくむしれ物
舌ニ痛乃事　舌ハ心乃苗也
ゝ五ゝ或ハ七情乃樹ス
舌ニ出り腫て出り
しゝ記ハ蒲黄とめべし
舌ハ木舌ハ心ハ肺心乃
経ゝり風熱乃把と出し汁と
吹くかゝしてゝ出と出し
髪灰三分　明礬一分是と合テ
舌ニぬべし　内茶ニハ乃桔梗
湯ニ入り▲赤金虫と云ハ尾
頭ゝ切ハ乃実のごゝく物
とかゝ小汁と用て必

平愈と▲小児ニ吾楽と云来
乃移と付ころぐ〻くこうこ乾心
熟ゆり素奇茸と赤てゆ
ぶしぬくこ又辰砂りうこ
昆布乃灰と付て絡ゆ絡こ猶
小出くぬぐ〻べしこ又黄連の末
と付テ右▲小児乃ちいこ瘡
ニハ老若と酉痍級ゆく一寸
乃紙ニ付足乃〻〻〻〻〻明日
ちゆうらう

歯乃病乃事

まち骨ハ腎乃生ちと骨ハ骨の石
ハ大腸乃経こ上齦ハ胃経ゆり
口とゆ〻〻〻〻風毒ちこて歯
乃痛む風邪乃腸胃ゆ
毛と乾ぶて出合茶痛
むと云こ▲羌活三分 細辛
川芎各一分 独活 防風 薄苛
地黄 荊芥 各二分 右常のめ
煎服ちと云ふ▲又齦

腹の〻〻〻〻〻

・柚乃系　蜂巣　藜茉　藜
各等分　右煎じ口中をうべし　洗うべし　鶴虱霜蛣蟯
藜　明礬　各黒焼うて等分未合し細末にすべし　五度
てうくうちハ無と出さるハ
ありみうりく治うれゆゑ
うれ仙人草とみうるとく煎し
呑ハしとおうらうれあり
奶漬瘡乃ち　見ハ男女乃
陰乃脾〻疾〻　男女共に陰
脾ハ馬鞭　桂仁等分拵合て
付べし　神効あり　又男乃
陰脾破れ腐ると裸瘡とハ
共脾るにハ乃系ハ
乃ち〻く付べし　洗系中度
荷系　車前系　右二味とも
つううう　主系
藻見るかゆして焼わ入
めうくうとううべし　飯葉ハ

解白焼　天花粉　白粉　何物系
右各細末にしてうこ乃汁にて
付べし　油と練ればとも円系ハ
こ付乃ち紙ようひ用ゆ　又苦の
囲外ようハ囲草とく大ち
乃物〻蓮房艾葉とく洗
系ことと又内乃ちうこ痒
ハこ虫とく虫うこ洗系
湯風　三下　大戟　二下　艾葉　五下
蓮房　三下　右煎じ洗こ風
治とうべし　愈系ハ　杏仁
硫黄　麝香　右等分うう
て綿うつこ入くうう　又只
脾ハ月水ある故こ　昌蒲　各
末丸　昌蒲　各
右蒜白と入煎服こくう
癩風　白癩黒癩こくう
まれのうし風乃ち乃ち乃ち
硫黄　大黄　明礬　各々丹礬
二匁五分　右末にし芙蓉乃ち

搗てゞ風呂ゆくてむさ
を洗付べし 扨洗ひすてゝ云
▲又黑ゆまぢ 三両 系 木香 各一分
大黄 黄柏 各一分 右常の如く
煎服すべし ▲一方 硫黄
桂心 右等分粉末にして酢
付二回ばかり並わるしべし
しべし

▲裏虫のすり 芫花 世ろ 椒 楊梅瘡
と云ふものなり 芫花乃秘灸と七
出るもえ 芫花乃秘灸と七
つまべく山せつのもと 前
あらべし 又いわべく 雷
丸乃油とぬりべく 治とべし
又三日粉乃瘡の灸 石 芫花 三
三張乃穴へ灸とへし

▲痒癬 世ろ 浅くさたむ
ゆべく云ゆしとろ
膠と搗べく付べし 上紙と
ふべして並一回程後より引

ひきそ 弘 白 [illegible]
と付べし

▲丹毒乃すり 世ろ 赤く 腫
と云 風 無乃ゆと 正
ろの風熱も 天花粉と 緑 胞子
ゆく付べし ▲又 赤
赤白仁 石膏 [illegible] 未
合して 豆乃汁 付べし
▲又 破 瘡と 三 芥
乃雫 白粉と 分一入て 油
ゆく付べし

▲寢痒乃すり かこうばり
愈ざる 弘 瘡と
らくいむ 河 ん水 石 天花
右等分合てゆくべし
腸毒のすり 血
ゆしり 流る
砂庶 白礬 [illegible] 竹茹 木香
点し 流付べし ▲赤 蜜陀
僧 乳香 検 明礬

丹礬　右等ぶらく洗く拭付
毎日乃ち　二両ニ両半ハ
ぐいもろつとり切く白汁
乃出るとさいく付へし　▲忠功
よおく出ル　稀ニ　稀ニ
ゑ乃ふつ乃指の腰　小ま
乃灸　二つ七日とべし　別条
除痛　うらしまの
痛とり　ゆびうこ　柳葉
　　右ぞぞこ　洗いく
山川ふと拭付べし
蜂刺　くちのさしこむ
生姜乃茎ゑ汁と付へし
ハ拍とりて付べ　わらく
こと拭付ても可　
狗乃ろこ　ゑ　右と赤
付て上ニ　茎と付て
水疵　ゑと　ふくこ
ゑれい　角と　ふし　綿よつて
紀門ニ入て　別

黒ふ　次の通り　別　麩
頸指　ゑ　練ゑ
縄と切ひさ　ひ
て縄と　ひ
耳と　ニ人ち　吹へし
髪と　ゑ　上と
らくさ　ふ
ん　ふ　て
熱ニ戻と　ふ包と　胸
温めく　ゑ　て
おしづ　入く　ゑ
まと　ふ包て入　
ちく　乃　入
練ゑ　ふ湯ふつけ　ふ
かしず
瓦瘡　屋敷ニ出来て　けの
切り　紙乃　乃
あぶりく　
かさりく　汁
つゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぶつ榆白はと云ケ一加へて付
ぶ一乳腫の付薬もおを
同じ 味ぶ汁炙と用ひて
ど膏の入さる膏薬と紙に
石林膏 そうじて乳
痛ふい部 鮒と付くらし
腫瘍 黒豆の乾 一方の魚
瘍と ゆとべ又の鰕 鰕てしらけも
白ぶ 三分 烏貝 辰砂 硇砂
松脂 芥子 雷丸各一分 朱砂
三朱 麝香 龍脳各一朱
右の薬を抹合して紙につつて
鰕もふとるも同じ
いは水酢とあくまてかぐる
ゆとるの時に俗あり
用ニ蛇の入さる時引て切れ
出さる抱え内へ抜把の尾と先と
十枝のまもて蛇の尾と先と
らして胡椒と一枝くきて
ふ

腫ふ拍の乾さる時 鶏草
頂實 馬仙子 神通草の
灰 ふるあとそしの
ふ白さ 青べし又い
てとらし 又中
と去 井ヘ
合さ 吾忍ど 横ち
又 月の形とのこて
又 児ふ腸の和と接る
ろさ 一枝妙
紙腫 痛むふい 黄柳三文
と 湯ゆさ 吾くらし
三 赤しなり
兵庫の 初
弘常 ふく 止さ
朱砂まぬ
石 榴の実 紅
右ふして酢 さ付
小児の痳 月三ヘ
ろゆ大の肝 ヘ

○洗法に九一用くるの風毒膿ゝ多　付薬ハ赤白仁と云ふ薬を細く研引の又赤と付く痛むふの薬乃前わく可し

内薬ハ人参敗毒散と倶に

しに尤時こしかゝ減とべ若おそく凡付く膿とくらい汁と云く膿と出とへ一生時

内薬ハ十全大補湯より

活血破血用くるの和ふむ

参湯と用ふ薬とも薬ハ黄蓍人

▲又風膿と云い膿出ての

お三同じ法也ハ膿ハ乃

程ハ付ぎ一生時ほうやうふゆ

ぐ乃ち痘ゝくかゆく

付薬ハ桂心とあして榆皮

三分の一加くて付く上に紙とこ

まるふくと敗毒散

十全大補湯とあるべし

▲風毒と云ふ膿ハ

かゝる見も常ふ押薬

▲同薬ハ敗毒散と用ゆ

聊年　芒硝ハ凡知る程

くるくるの時膿ハ

付薬に敗毒散乃硫黄乃

ふく付くく

加くうの膿ハ内薬ハ

加味敗毒散とあるべし

くること多びくるハ清心湯

とあるくうの常ハ疾敗

とあるくるハ

附骨疽　とハ骨ハて出る

多り赤く腫痛ハ通薬と

茶乃煎を赤白ニ
ケ一加く作り
と加く補助托裏紙と用べ
二方ニ黄蓮　當歸　芎藭　牡蠣
右等分ニ合く帯乃ごとくニ
煎服を外ニハ秋葉乃灸と
猪乃油ニ練げく付べし内ニ
よくの本乃皮糯米しく
丸湯ゆく用ゆ大乃功乃骨
乃ゆ紅ゆを煙ゆく焦つ

癰瘡　こぶ乃ごとく内七名

もし紅ゆの
もし赤ゆ膿多く膿ゆ太ゆ
有り後ゆ治れ上下と分
別ちく治とべきゆ多用
先老茶と茶乃煎ゆく小
汁と用く付べし一切のこ
ぶニハ昆布円と用べし昆布
松海　小麦　右等分ニ合く
研ゆく煎し乾てまし

蜜ゆく○見後ニ合
後三月三度用円麻子円
ゆ黄と白く炭ゆ三ツ熱く
茯苓ゆ
くあ
乃ゆ
と用く
猪肉　生姜
膀胱　胞
顔面　大人小児ゆ共ニ面角
乃瘡ニ赤ゆ
る ニハ英連　胡粉　牛川各三分
猪肉ゆ十二月ニ合て付べ
又赤烟ニハ貫仲乃灰と芹乃
汁ゆく付べし又桃乃皮も良
葉も用
ろニハ烏梅肉と炒まして付
て尤良　白眉よ乾おふ
らしぐ多ゆ生ニ出く痒く
頭頂ゆ出あ上てかけハ
ひろれぬ程ゆ見ニ麻仁

柏乃葉　秦巣冬三両　右各水
ふひさ一升煮て一升になるべし　朝夕飲とあ
らるべし　何も能ゆるべし
▲赤茯乃痛おりくさ　随痛水
乳も風物乃多と西　桃仁
揚て白あるあるあるもり合く
ぬるべし　▲二方ニ茯連　茯栢
胡粉　右各分ニ未し　付べし
内薬ニハ桃風湯　何首烏湯
▲一方ニ桃花　白瓜実　右水分
未して付べし　▲二方ニ白茯苓
と未し蜜ニ和して付べし　▲二
方ニ雄黄　硫黄　酸床子
右各分未し　ゑ乃ニ
付べし　▲二方ニ柘子　ゑと
柘ゑりてけどぬるゑ
どして良あり
鼻齆　一切鼻乃痛あり鼻
肺乃通ゑ　ゑ
熱　寒と泡

もべし　脉い小滑あるべし
大燥い悪し　赤く腫痛ハ
梔子仁　赤白仁各分ニ物て
色ニ乃汁ゑく細くぬるべし
▲寒て涕ゑく出るハ干姜
桂心　各ゑ　右未して綿ニ包ミ鼻ニ
入べし　▲又鼻齆ニハ凡薄と
未しておゑとく入くし
加味　効あり　▲一方ニ通ゑ
細辛　附子　右各分ニ未し
蜜ニ和して入べし　▲又涕ゑ
く吾鼻ふさぐり或いあく
ゑるくニハ　梔子仁　枇杷葉各
各分未して○毛穴ゑ
一枚ニ三十粒合後ニ茶乃ゑ
湯ゑく吾べし　外ニハ梔子仁
一味と未して乃ゑ泡く付
べし　▲又肺塞して鼻乃
通利せどい肺通乳湯と
用　薄荷　羌活各ニ分　荊芥

陳皮各三分　防風一分　右常乃如
く煎服す　▲瘡わづらひ　升麻
通草　梔子を加　赤皇乃内
乾くいくどくくい麥門冬加
▲唇の　是胃経乃通所心脾の
熱生し痛む　升麻葛根
湯に桔梗を加へ用　▲唇裂口
乾くに外麻　黄芩各三分　枳殼
二分半夏一分半　右各末
し蜜に和して付べし　▲赤炭
心と成るに煎じ呑
めり　▲唇瘡に耳松當飯
其中各等　右乃如くにして
ひるりけてあり
▲灸瘡　ある人灸をとるす
灸痕に及く血出く厚とる
とく百草と吐くも止らず
又是法　右乃如くにして
乃黄芩二錢を末し酒に
服してらぐまりり　冊より

▲灸瘡に石決明乃油に
付べし　▲赤茨根　寒水石
赤白仁　右各三分　練べし紙
お付べし　▲茨根
乃末に白松を加く中に付べ
し　▲赤根乃皮と麻に
付べし　▲又椒沢に麝香を
付べし　▲又山梔子乃赤を
水に付べし　▲又古紙乃灰を
其に酒に付べし　▲又強く痛
痛む　茨根乃赤皮を
極く付べし　▲又焼く乃
生せざるに紅花　好茶　麝香
各分に合て麻に日くに
付べし　▲又陽起石乃末を
茶碗に入階に
中に車と言又あ乃脳石と
書く　笹乃系に
てくぎやけどとろりけべ
これ時乃文いらく　やけど

とまぢ多へ川さの方ゝ
あゝとゝ多ゝ　ゝくまの乃湯
はるゝと三ゝとゝ多へてあり
ゝく　ゝ

▲毒消乃ゝ　毒と飲ゝ
とゝゝゝ時　紅花は　ゝ焼ゝ
ゝゝゝと脈と沉と入ゝ
てゝゝゝべゝゝ毒とゝへ
ゝゝ乃名とゝゝ
て飲ゝ　▲又毒消乃方
桃は　紅花は　鶏　右のも
ゝゝ紀ゝゝゝ
ゝゝゝ

▲石疱　うとの月乃ものり
まび　松だらゆくりみそ
茶いと　燒灰　あり　當九乃
油ゆく付べし
▲凍裂ハ　車前草　荷葉
鷄糞　右各等分ニ
わらびつるとよく洗ひ大麥
と粉ゆく　續命ニテ　稀や
し付べし　或いぬ信ゆの末
と付てもよし
▲滅瘢　是ハ一切乃瘡瘡乃
悪しく愈ふるあとのもの
あり　胡粉と白蜜ニ和メ
付べし　▲又白姜蚕乃末と
付くるか又　麝乃麝乃
白ふ紙蜜ゆく付くるし
▲茶方乃ものり
黄芪湯　便毒乃用茶
癰疽發背ものり　赤芍藥
牡蠣　桂心　地黄
川芎　人參　茯苓　麥門冬　黄芪　各三匁
遠志五分　甘草一匁
右何も劉と生姜一片　棗ケ
煎法常乃ごとく　腔物出
来ものり考へ用ゆべし
神効托裏散　便毒乃用茶
癰疽發背腸癰一切毒
乃腫物腫痛ニ寒熱
ふるひ屋ふるひ治ス
忍冬　黄芪各三匁　當歸酒炒七匁
甘草一匁　右何も劉と生姜一片
棗一ケ入常乃如く煎服ス
加味桔梗湯　口中乃諸病
乃要茶ものり
利女　升麻　葛根　芍藥
人參　土竜　訶子　明丹
荊芥　甘草
右劉ニ各等分ニ為して
包ミくべし

▲石林膏　婦人乳癰乳癌ノ用ヒテ効アリ癰疽腫物用ヒテ効方ヨシ・一松ノ葉ヲ煎シテ用ヒテ効アリ

▲弘白散　又三白散ト云　痛ノ愈ヲ主リ　蛎灰　葛粉　瓜樓仁各等分　右細末シテ付ル口ニ付ル二ハ蛎灰ト倍夏ハ葛粉ト倍春瓜蔞仁ヲ主トスベシ・疵痛ハ蟹天南星ヲ加・筋切ラレタル二ハ鹿足ノ骨ヲ末加・骨ノ切ラルニハ鹿足ノ骨ヲ末シ加・疵ノ口開クニハ田螺ノ霜ヲ加・疵ノ開ラザルニハ角豆ノ末ヲ加・疵深キニハ秋茱萸ヲ加・疵虫涌ハ鏡草ヲ加・血走ニハ美人草狼骨ヲ加・疵臭ニハ竹ノ皮ヲ末シ加以上外科秘傳畢

▲食物ノ忌ハ法ノ如ク

▲い

▲芋ハ疱瘡ノ毒ヲ防ク　芋ハ食ヒ過ベカラズ　芋ガ目ニ入ルトキハ目ヲ洗ヒ　芋ガ目ニ入ルトキハ目ヲ洗ヒ　芋ガ目ニ入ルトキハ目ヲ洗ヒ

▲疫癘のひのやうしゃ世合しく
ぬ悩と腎つにのろく
小便ふぐ〻こうーる
毛力とまんもあ男女青合へ
こちのいちこいきゆ〻熱と
さ後一月あとぐーやけどの
いくむこるぐんがりはてーし
▲岩茸の大小便と色一粘こ
ぬ人色とまー紙ぐとくも
茸大豆ハ血乳とぐーあ
ろりとせー心とろーもーむ
▲核ハ血ようーふそ白病乃
毒むさとらべうーびさーわい
きんりの切切り但一熱しく
▲そろーこ若冷ろにいろろ
▲狗ハ毛力とまー猫青と狗ひ
腸胃あくートせうち膝
とあくめせのとまた痛切面
▲狗のふぐれのどぬ
とぬさ脱ぬりてしふ

▲鞦ハ骨ぬ焼かく淋病ろうり
やまぐろーこ毛むも豚ひくこそ
出ところもミ酒ゆくのひべー
串ふさーわぐり虫児の痔泡苦
▲海豚魚ハ粕ろり切ろーと虫とこ
ろかこ弟一鹿と狗ひぬんと
つろくしぬわわう豚と活一水夜
と血一毛力とまもとれぬり
▲鳥獣ハ伝病ごろらどと月ろと
ぐー白じ分ぐじーく名果
ふく虫ところ腸とまも痛苦
▲鰯ハ骨と猫ひ見ぬ分ぬ
中風ぬ血ところり毛力と意
多食ぬもれハ疾の毒ひくろの
て吐逆と上りこハ冷ハ豚と
▲伊勢紀名言ぬどーつ
うんてう に分こ分国知人ぬ
糸りハひ伝猫ひ毛力と言
血ところり大勝のたの虫ぬこと
治ぬ伝病ふ色ぬ

▲薬海流いろく生ぜし腎の病ひ病ひ毒の薬の
薬やうやうにして酒やさまりの中
にてべて百病にさらに接腰にて
石亀の絵とわろ地ちんとを薬
みて祈灸のおもれごのばけ

▲ろ

古来の伝病の薬ひあくまでも
食ともくめ注逆若疾とはまど
傷の秋の赤ちゃこの薬と常
ふ合して百病と治とおかく
腰の屋に茅し女のちのこちらの
ちかさまり疾霍無恨若男女
のとりかいさとこの気
とでー屋て病の小児やうさう
のちでめ一月れのかろくして
ゑどと中風のけ若使と接ス
毒月ちくべりべ

▲は

薬傷の久敗かさと治と老あ

くべー乳のこうろ若小後と
毒ー淋病やむさんこれこうと
ぐーそーのつむーころや
こひてちくこと治とおかく
ふ附の白と色ー
薑いちぢさ疾吐逆ちゃると
ちむ傷寒ぜつうかりちがさ
あかく風をとちしー買とひや
大ふ病れ毒虫のさーさられけと
ちがりけ人て若風ほた
ごにかりてめいこれこさにも
ー但ー血とやがりとぶ
つちちと色ー風のころーの
大ふいひこさびーのの毒とけこ
ふかこれごー

▲防風ハ風邪ハ頭痛月ひかり
ふ痛若又腰と毒食
地層ハ淋病これの色月下り
ちー和白癩病病乳の口和
ちくのさかさに若ハ風

[illegible]て彩ところ一病気と治と
藕は五臓と補ひ出ごく酒毒
とさ陶一合と[illegible]上母の穢
疾飯乃ちろ[illegible]こむ生の冷し
▲同茎茎は[illegible]くらんと治す[illegible]
気力まし一病[illegible]病[illegible]と治す
ゆてかゆとの一百病と治す
麻麹茎は[illegible]まし中と補疾
とのぞ記熱乃とつぶさと止合記
いたづこ[illegible]くのむ婦の
茎仮は胃代ひ[illegible]さ合と
ひとひ[illegible]て[illegible]
萩の花併は新[illegible]食[illegible]れ
熱一ひきつく人池沼[illegible]らんと
[illegible]記拍は[illegible]ハ[illegible]一食べ
淡納豆はひ[illegible]痩[illegible]記
疾づ吉酒毒とさ陶一依病
[illegible]と中風す由槐[illegible]
榛は陽胃と[illegible]カと

[illegible]と久病[illegible]
胆嚢は胃と[illegible]
合と[illegible]め病[illegible]
ら一瞞乃病合と[illegible]
く[illegible]賢と病[illegible]虚損[illegible]
[illegible]は五臓と[illegible]と[illegible]
かき[illegible]臓と[illegible]と[illegible]
[illegible]は[illegible]と安一[illegible]
[illegible]は性[illegible]小目一脾腎の虚
沼[illegible]方[illegible]の孤中風の[illegible]
乃久一[illegible]ふふ[illegible]のふんふさ[illegible]
[illegible]の[illegible]り胃と[illegible]三合と
もくめ[illegible]と[illegible]し合と[illegible]
[illegible]は一切の[illegible]病人[illegible]
孫也又痩の中大[illegible]と[illegible]
[illegible]は布力と[illegible]腎[illegible]
[illegible]の力痩[illegible]と[illegible]
[illegible]はひと[illegible]痩[illegible]百病[illegible]
[illegible]と[illegible]一[illegible]性[illegible]
乃[illegible]ろ[illegible]おー[illegible]

まゝかとまゝ食とゝめれ
け時の業[illegible]いまゝ
▲鰹ハ味とゝ中ひのと補へ事も
ち屋に吉但[illegible]
▲鯛ハ胃とのゝさ時脾のあと
ぐゝ腎と補ひあり力とよす但
ゝ食ゝれいとゝとゝ下と
▲蛤ハ虚弱時に吉同の業[illegible]と
つゝ脾と補ひ酒毒とけし
但[illegible]
ゝ但冷酒あく中の毒多
食ゝれば[illegible]
風とけゝと又酒に病熱毒吉

▲[illegible]
[illegible]冬ハ又[illegible]と補ひ多く食
しく意切切 [illegible]毒切
▲蝦ハ又腎と補ひ食ゝ[illegible]
と酒に陽とゝ[illegible]と中夜
ゝ酒に陽の[illegible]痛吉

腎ひ[illegible]
とゝゝゝと表二月ごろ[illegible]
但酒に[illegible]
ゝ[illegible]腹ごとあり
ゝ陽毒の民酒のゝゝ
ゝずゝ食ゝれば[illegible]
ゝとゝ又[illegible]
ゝ[illegible]切
▲蕨ハゝゝゝん腹痛とゝ吐
逆ゝゝゝ吉ひあとゝく
やゝ癖ゝれ但痛とゝし
ゝ乃ゝゝふねりてもゝゝを止
但一日の毒多食ゝれば
ゝんとやゝりんと甘ゝとうけ
風病のほ食ゝべゝん
濁酒ハ又痛ゝゝゝ
ゝゝゝゝゝいゝゝ二日ゝひ腹
▲又小豆ゝゝゝゝゝゝ
鶏ハ産と御ゝもゝろふゝゝて
かゝゝ▲ゝゝゝの中とゝゝゝゝ

かまり屋と稱ひ痛と号
らく女人うりけ[illegible]
唯者いかりの病
[illegible]
[illegible]
[illegible]

▲乾漆ハ生ものより毒かるし其ホ
ひあれば毒をとる其ほかの損を
けしゆくあへてくふべし

▲狗毛藻ハ一切の病毒を除く
系石淋を除く乃ち小便をよく
と治をとりけ胃痰宿食を
腸とを除毒を教し女まろ
痩痕上下三焦をくく痛により

▲乾芋の茎ハ百病の茎なり
生ものの毒をとる草も同し

▲法海味ハひあれ茎なり
まりかれる茎をと生中虫にて
鬱毒をひくき疾とをなり

▲牛糞ハ諸病ハ食
乃味をまりひあれ鶏ハ食
もとめてくべくるかりかと肥を
生ものの毒なり

▲牛水魚ハ十月の末より四月の
はじめまでとる真なりとも川
みのうをとれるとこれ生

百病ハ一切の毒なり

▲ひるいせこいしひあれ
ひるいせこいしひあれ
腸をゆるかりかと肥しあれ
あをひくく

▲河ほりの冷物
但年へく海ふしこ
扶餘ハ人をもやきこ
さいの背蒸を
ものとあり虫病に
石蜘ハ出候ハ
病をとるひろ
ねふの足をもらし
気ものいろ
より病ほをとり

▲巳

▲野毛の気ハ一角食とけ
しさんをあとこ
くるひをくべ但出
色合をくべし

中をこの合

[illegible]

[illegible]

[illegible]

▲粉ハ[illegible]ん[illegible]ハ痛ひ[illegible]
[illegible]
[illegible]
ふ[illegible]
▲茶ハ引茶ハせんじ茶ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

▲鶏のそこの冷し出し様ようす胃と
ひとしき程とまとろ合とくめ
後中乃ちのけのくわしとこ一
ふべし又黒いりの冷合とと
らしやとかへやうそどう
他し見れるたにふくもん

▲ろこ物の

▲ちと　松　こんこ小人
真赤い大温多りひの球とこやう
み中と稲山胃ひとくかし多つ
ふちのまづる疾こう但レ女
食もれい心服ふくれやさりく
ふ合とひひやけ苦酸は逆
乃野小毒多り

▲大麦ばくん中と倒へ合とこ屋
芋と稲ひ合とりふ縄とつよ
し乳ち無とじとこん町
かれの病ちくもあ胃れあやい
らげ紙えとうひ強ねとを
ひこげとろくはとれ作りり

てこの号ひざこらくあの
時誉ハひ毛とろ海と面と行
あざり赤癖疾付てう冷ハ
又れへ食し丈地乃中ひのこに
それと名といそくとれいあの
切ふく中ろく多ひ但しる合
もれい大風とうぐふくへ
▲猫ハそれり又縄と猫ひ骨多と
つくし腸胃とあてと後お
冷稀ゆく青と感奇ふ
ありく青へ猫の月とり小佩
もい法の野悪汁ちりでく
▲猫乃毛ほとく数ちれハ
あくまりて疾とけもを猫の
尾と猫ろひ付ろろハれち球
くくひく柏とどりせと
脳順勝大熱中と猫ひうと一
あくめ潰とまり但し陽とこと
結況ろ有四疾癖やせろ人ふ
う猫くくのいこと弁りくの冷

かさまり桑の根てんんんんちぢり
腎虚のろのろうこ吉原ふ
まどる乳の乳のねんへこう但
蜜ちんちんく蜜ハ人ぶ

▲わ

蕨きし生い毒ちり上とと
う貝ふ毒かこひげとゆうとな
ふぐり筋青とこぐ中とあさ
ぐ場乳代ーし脈ごま
出狭中風脚乳筋乳出血
山薑ハうぐかこうりをげく
ちくはあひちうくん脚
乃痛とぶし脚中冷るへこう
和布ひ乳代ぐ鬱乳ぶ
し貝ふく肝脂の乳乳と但血とあ
ん菜乃毒どもと但血とあ
ろちとり小痛のめめりとま
痰ふぐり嘔気ちぶちいむ
ゐれがはーふうるあり
波粥ハ初ちく一度食しれ用

ハ附うり刺洗ともと
食とれい服ふれ秋神れと
鯰ハ久出どうりたる屋へん
小児乃ゆとつうり去ハ月前
と硬こり酒中く飲のわーふ
ゆりのうぐけうち有つぐに
妙菜ゆり上れば食はト乳
ハ食おふ月ゆ弁三方藤の乳
とき法し痛前ふ腹かく去
同農ハ大きふと湯ハ色け
ぐれうーげぎやきて治ち鶴
乃ん乳も同しよ腹ふ着ニさうに
えと硬ふ焼酒て使てこう
鶏ハひのとうる法しかと和
ふりとつうくも但一熱乳ぐ但
とげうれ毒血と食ふしゆ
てくぶハ毒うう一姜砂と用ゆ

▲か

蕎麦菜うん青代ー食と洗
くとゆーえ脂と和ーちぶき

消渴ハ腹乃冷ク痛ミ
熱毒陰ヲ蝕ル乳ヲ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
毒あり出又疱瘡ハ
胃乃虚ニ乘ジ食ヲ
大毒多ク腹ハ
もいむこと
[illegible]
[illegible]
[illegible]
華草
[illegible]
[illegible]
白[illegible]
[illegible]
[illegible]

酒とるべし貝母はまふぐり出すも
し腫物ならば血とるべし
し血とるべし
▲何首烏ぐるくん痛と
治し久食し筋骨をつよく
と一切のひへの症と治し久持
とやし女乃ようくるひへくるひ
られ久食し憎みんせしむ
▲蕎麦は瓜のあらづけは百病
し用ゆわざはは用ひどれか
とび大うんもわろりはひめ式
ひやとあるは病ぶらんび
▲かとび漢はいとしひさんごうき
おろし温熱乃症と毒あり
▲ちろりのあし漢毒のし性し
つと痛とは法とたてらつべし
▲芥子くるくるは風毒腫又は分
とびれとぶらびるは硬くなく付て
しるしの瘡血しは必ず

痛小ちるしびとりまぜくう
性し病毒血とやぶりく
と食とれいむひと
▲雲汁善ひへで淋病ぶし
膀胱乃熱とたて毒と病風
しとあれさげ貝とあるを
虫ぶし腹ぐるりとまるぬ吉
▲搗和布は小便ちぶしてし前病式
大腸とちぶしてて
治とたくつく食とべし骨
▲痢式病と
稗むし痛式治と
粥うん平ちし粥乃
毛虫乃人ふるうる用く
し腹中つく清しやし
▲栗ゐはらわくまろし赤
ふんとつくむ▲稗米のうるうん
▲ちびる平▲小豆粥小便と
利しあ膳けけと清し熱と
去▲薏苡仁乃粥熱とのぞく
腸胃式利と▲蓮肉のうる

ひの式つゝしゝト利とそむ
▲ろうこれの冒気と絡いう
ものとつゝくと▲暑熱ひる
冒と絡ひ腸胃とうゝと
▲戦かの腸胃式ゆくゝしゝ
てゝ式ものど▲大柏ん合と
ゝゝと利と▲蕎麦も熱と
云大小腸と利と▲蓮の中
とゝつゝめトとわゝゝむ▲葱い
汗と殺しゝぐゝとゝ絡と▲柏
柏の樣と絡ひ血とまゝ骨
気式ゝと▲生姜の中と
わゝゝめ悪気式ゝ▲麹とゝろ
の三入ゝ合いの刺とゝむ
▲鶏塩と色ま入ゝ合ゝれば
血刺とゝむ
▲撥解ハやゝゝゝたゝくふ合の
人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝとべゝたゝゝ血とゝぐめ
んご月ゝひゝゝゝゝゝゝゝ

ゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝとゝゝ合ゝとゝれゝ唄とゝ
ゝゝゝむ
▲棟ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
かゝたとゝゝ腸胃れ熱と後
ゝ唄人かゝてゝゝゝゝゝゝ
ゝ合ゝれゝびゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
▲柳ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

何のあくも用ひあり
椒春の小豆八脚穢
みの下血を治す
みのこの病人の服ぐろ
▲ゆり根 根の名百合
みひのとをやひ
め疫とす 味甘と酒
を嗜 脚痛と法し 特効
下血血淋うり 熱とぶ出
とろり及胃 用く
ちろうろきろろ
ちべ中わヒ尺
腎味乃上れとと
稽く性ん多の
極実 食 食
分○やつげ目
しまとろくる血
久食一百病わ
痔乃ろり出と
乃ゆりあり

乾栗 性平 血をとめ
ひの病ひ疱ひ疱
食をべ久ぶ
うをとぶ一血を生じ
ぶをとわぐみやうろ
病やり別して腎茶
▲ぬちい 敵らてち
霊草 色白 味甘 日中
しのはれ小間みの
中ゆるめくと云
かうちわふろ物
貝ぶ乳ぶ乳
し悪血乳ぶ
をろてゆり小児
頭瘡 ゆ
骨ろ汁 毒とり
ろく 食物とて
門 林 食 脾
病 毒 芳 熱 奇
ろに ところ ぶ 久 表 ところ

治ヒ血脈を通じ
さ[illegible]ら[illegible]冷病小の用ひを
又美痘ふう失ふ脱ちハ咀
ふ骨ハとらるとめくく中毒を
けと▲日件い毒あれたらく
らーこの乃しーとろ
▲唐あまく牛 冊石乃毒とあス
中風ハ乃ーつ乃ーこ
身のあへるハゆーつ
気法めぐーあとろ
とろく ぐくー耳乃
治ヒ血七月のにふべ
乃ふ陽ーらやぶう
▲鳥わうく牛 中と猶ひ
まー食とう出とう小猪
とやー小後とあーあ脛と法
屋人ふう九月蔵ヒ三のお
ふ誅ふ大ヒとわとらびとと見べ
ー▲同ロハ後とふ陽ーあを
猶ひいきといやと▲ふ

けふひ
脚ハ中と猶ひ泄ふ
うーわぶと耳の
▲乃脚ふ後と刺ー温
脚ハ又後乃熱とあ
よヒのひ二付多食
▲奥猶ハ奥乃骨ヒ
こ吉宇氏ハ
気ふ骨と猶ひ人と
状とやめふけ骨毒の
疱つれ後ハ出ふ
胴中毒とあと半
つ疱乃出百痛ふ
ふい毒脚ふく久毒
骨蒸労毒ハ血中風と
ひふりくヒくこ
よとハ毒ハの用ま
移湯疱労毒血の乃
ちどーこハ疱ふ
又疱頭瘤ふ膀胱

▲よ

▲女

▲た

▲荳蔻

▲蒲

▲大根

▲柳

ぐりかつぐびうー伝あめんりのの
ぐくとりとゆくもはそとまん
但ー稚のりれ自汗わ後のちり
とあいびべー▲やきるとも熊
同ー▲天花の粉ともり用れい
用ふんとうを咳臭と治をえ又
霧者とお大久後乃風のて
あれ入さうー
▲蕎えんくくえんと一把ぜん寒乳
乃ふふくへりあ見とあしひて苦
椒大小腸の約氣伝ぜんべきの
毒ものはくもりいあり使れ
見のてれうづくあ付くうー
但ー久後くへあ毒熱ー骨鼠
と扶と蕎使たんそい毒
▲蕎乃麦乃見ぬ
扶首えん稚れ
筋骨ふく藤と利ー砂腸
毒ー蜜ふく用とくくと
但ぜんにいじんえ乃ふん酒

作乃よあまひ利
力とき酒とくき冒とき
ひー食とすめ後とけー
ひ痛ふくくあくくと但冷
痛ふけ後寒痛伝腰
痛毒出ておすりあるひう
骨茶法乃あ
挽ふん二首ふひとー後
とふーひふひ乃藤昌乃
続とふ酒ー蜜焙漢い最蜜
乃毒とけと但ー脚乃気伝
やぶりふいまにとあとりて
粉ー痛気れいさに用ふに
ふもあふもうあ見へ見へ
▲猪い伝くあれたみんのふ
ふけとみうーみふふと
但あふくー気伝ー中ー後
稚風とふ但ぜんどふひたあ
ひふふそ毒痛の毒
▲同ふんとふのやふふーふーさ

▲ [illegible]

▲ [illegible]

▲ [illegible]

乃病熱腫痛のうつきこと也かさ
四り三うとくてくらうは
ゆく後くべ一み傷寒の治り
胸膈の毒ろに付くこと
但虚人ゆうべ食無とかく
▲何とぞ毒にうけのこれさ
ひかつけくり
れ三物の
▲う
蒼耳 あまくん 乳カとうなる
とそで腸とゆくくし池汚れ
ゆむ赤白痢の丸べし但食
ゆれい流病と郷と風病の
乃毒まもひんひけとぬさ中風
うけけ痺ゆくり▲ゆうとあれ
ゆくふ大毒なり▲ゆうとあれ
ゆくうんうけとうりされゆ
ひ一ゆくふまれゆうれ
ゆうわまく金と風れとゆん
物ゆくくとうんとうゆ

その物も物の毒なり 鶴毒も
索麺のあまくくの用ゆふ
しく病ゆうゆくくゆ食もへ
ゆうくうんゆ痢雷風とう
ゆ一腸物ふ毒へゆのとんへ
風くゆうわゆの毒あり
▲麩豆は胃ゆふく脚と物と
▲つ
▲去年は疫病ひ一猪員とう
百病の毒ゆ一疫病ふ用れ
いはいゆうくゆとうへゆ
ゆく猪いもよく虚と物ゆ
いも同物ゆ物ゆりやゆ一
▲露中風労癆百病ゆう
▲露ゆ丸ゆ毒ゆ無ふ小児ゆう
ゆうくの丸一生と治と
▲ゆうくゆとゆうゆ
▲猪ふ牡病情ゆふうのゆこと
ゆふ人虚と物ふ猪病毒ゆ
▲熊 毒ゆくくふ物ゆ猪ゆ
丸とゆ海の沖ゆくゆ石高の

▲ね

▲蕁草　百病の毒しさいとぶ
[illegible]酒　[illegible]酒
[illegible]

▲蕁麻の痛やせうゑ
[illegible]
[illegible]

▲猫　[illegible]
[illegible]

▲な

[illegible]
[illegible]

刀豆ゑん　四熱ゑきく　四熱ゑきく　四熱ゑきく

みかんとりこ　肉痛　四痛　四痛

ひかのこと　癰疽　疽疔　疽疔

より但し　集乃毒　歯痛と

こづり四とゆ　白蜜こつの　淋

びやうの毒より

生姜　四のゑきの　四のゑきの

乃目まいのより但し　女食とれば

性さくひろくさり　出血とる

生姜やせこうく　女食とぐく

むしてかりこう　熱毒　百毒に

用く熱物より　こうとなると

梨ゑきん　熱乃ゑきん　熱乃ゑきん

大小便と　傷寒　傷寒

ゑ熱物いられ　慢風　慢風

耳ゆ上乳汁　乳汁　乳汁

乃ゑこと　乳汁やめ　乳汁やめ

とはまくも　ゆつく　ゆつく

こう冷物ゆく　熱乃ゑ　熱乃ゑ

但し　金瘡　乳婦　四産

女食とれば中乳汁　乳汁　乳汁

ゑ梨ゑきん　ゑきん　ゑきん

同乳こうくらん　こうくらん　こうくらん

せんぐのこて　吉酒　醒し　毒

鍼い胃とひ　乳汁　乳汁

とゆ　腸風　四産　四産

上乳汁　乳汁　乳汁

ゑ女食とれば　性ひの　性ひの

鍼ゑきん　小便と　通し

乃ゑゆこうん　こうく　こうく　四

こゆひのより　後　後　毒

同ひのゑこい　人と　人と

鍼ゑきん　出積　出積

胃汁ひこ乳食　ゑむ但し

乳こゆ積とり　女い　女い

こうくゑとの　乳こ　乳こ

生姜　骨　柔　桂　汁

こう　流出　流出

病ゑんの毒　婦と　婦と

▲ら

▲蕨薇ハ毒ありて人を殺す

▲む

▲麥飯ハ 山の芋の麥めしは

▲麥ハ大麥ハ

▲梅實ハ 生梅ハ

▲梅酢ハ 梅酢ハ

▲馬肉ハ 馬肉ハ

▲う

▲牛酒ハ 牛酒ハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小児乃疳虫風熱と云稱す
▲傷寒乃熱病の
熱ふ者▲ゴとり 蓮田虫の
かさとかさて赤ゆ作
▲豨莶 又稱て獨ひ為青紙
つくし 黒豆 結熱と云ふ
▲泻と治ート 魚と乃くの労さ
い青蒸ゆく 生姜と云て赤
白痢と治小児の又痢ゆり
但蘭と同食とれい痔と記を
▲豨莶 冷ひたつひ又痢ゆ
ゆ乃ゆ利ート服の法と治ス
淋病乃膀胱ゆ又赤白痢
病と治を黒焼ゆ喉不骨れ
立ゆる ひ
▲芎藭 陽乳紙 物ひ脾と
け 物ゆ ゆ
▲肥多 ゆ と ゆ 絹と
▲紙乳 虎労 昭同 者常 食
▲鱸 魚 ゆ 他ア 労 療法

乃出と ゆ 法乃 病 傷寒 療法 女子
乃陰病 ゆ ち ち ぢ ゆ 児の又
痢ゆ ゆ ゆ れ 脚乳 う
乃ゆ と ひ ゆ ひ り 者 ゆ
筋骨つく 傷風と去山 猴 ん
ゆ ゆ 又 痔乃 と り く 但 労
▲熱骨蒸 又 者 ゆ 病 へ ど も 又
木瓜の部と同合ス 赤ふ 粘ゆ
▲海藻 法 病 小児の 毒 ど へ も
▲鱺 骨蒸 痢 乳 乳力 と
但 疾毒 出 鱺 ふ ど む
▲海帯 乳力 と ま ー 女 乃 ゆ ち
血 脹 痛 者 ま ま ち ど
▲霊亀 霊亀 乳の 乳 ふ
て下 ふ者 又 痢 脹 乳 漏 漏
ゆ り 但 疾 ふ る と
▲ぬ い り ふ ち と
▲の
▲蓋忽 膣 乳 ま ー 者 ゆ
く ー 疾 乳 毒 毒 ど の で 紀 毒

出乃ん乳とをりでく

▲貝母 貝母ゆくりに効力と言

芎藭と云 但あ食 疾病 西

▲れいをりでふをろを

▲く

▲葛粉 陰ぬ乃腸とをろひ小

児の癇癪付たふ乃ふ

ふゆくのむ又癇 但

胃熱と去合とをくめ池酒

前とをあからにやりめ仮

一金瘡と治一上部 血

やめ酒毒流毒 百薬乃毒

気と料理 男ひ法 汗はと言

悪れ布 ひあひく 湿と去

脳とをふ一小役と毒一大ん

と治一出痔 耳又痛 疾 喉

気骨痛 ひけす 白 脾 酒 食

体臭 前 女 のてくを

第 気力とまー ゆりめく

腰膝 一但 病 狂 又 病人 酉

▲薑漬 実熱 新のいをりと

さまー 以 風熱 疾 ふをぶり

只ひ 言ひとりく 目とゆ

ひ食とをむ酒 よりわくめ

ひうくひ豆あり 但ひいれで

出の毒くとてあ又ぐー 病

人 座 乃人 ひむで一 二 秋

漬 ハ 病人 ー 薑 酒

ハ 他 合 言 食 治 ひいと ゆく

菌 ハ れくさび 松 ゆり

去 草 ハまりひ 草 ハ ひ比

ひくも 出てる

▲鳥草 黄 疸 下 無 血

崩 出 痔 耳 目 ゆ

胃とひ 食 前 一 血

と言ひ小役と利一 実熱 の

ぐく但 疫 法の ハ ぬむへ

熱 粘 一 腫 ぬの 紀 無

へ ものりえせんう 雑 壁 れ

ふかしびえハ石 林 とくとよ

▲豆淋酒　中風虚冷

▲胡麻

▲粟

▲串

▲豆蔻草

▲雞

▲池

[illegible]

▲胡桃　[illegible]

小後と利ー　[illegible]

久ーく合ース　[illegible]

組ー　[illegible]

[illegible]

[illegible]

▲[illegible]

[illegible]

▲[illegible]

[illegible]

▲

名合とり酒とそそ[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

▲

[illegible]

▲ま

▲松草　ひめと稱ひ食とする小[illegible]
仮りにもどりて[illegible]
[illegible]
仰て[illegible]食[illegible]
牛蒡ぬりの乾と[illegible]
[illegible]

▲蒲　[illegible]
▲[illegible]　[illegible]
[illegible]
▲豆粉ハ無[illegible]
▲松の[illegible]　[illegible]
[illegible]

[illegible]
▲[illegible]
[illegible]
▲[illegible]
[illegible]
▲[illegible]
[illegible]
▲[illegible]
[illegible]
▲[illegible]
[illegible]
▲[illegible]
[illegible]
▲[illegible]
[illegible]

虚熱[illegible]と云ひて[illegible]

▲治一[illegible]

[illegible]せつれん[illegible]

[illegible]

[illegible]

▲け

[illegible]花 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

服とれば命のくすり

▲陳米　陳米を煎じてうりの刮わり

▲麩　百病に吉ひあと湯にて

小用ゆ但油乳

▲麩燒　麩あぶりたるを

児の疳虫　百病に吉

▲筍　筍煮て食

中ノ子　ごぼうの中ノ子

うれ吉　はしりの筍

かあり　小豆

▲蒲　蒲の穂を焼て

つくり　命とのぶる

▲百病　百病に吉

▲物揚　物揚の疾とのごく

▲麦　麦乃ハ麦わとり

▲同油　同油疾の虫とろ

▲とやぶり　とやぶり

ふとく　毒

▲粟　粟乃脚病小児の

▲鼠　鼠病風病むせ病と

▲鮒　鮒乃前病腹病

中と　中と

▲外　外

▲灰　灰

▲泥　泥

▲大麻　大麻

▲鮒　鮒

▲蓼は氣ものを出せと大毒にて殺の和面病にもいむ

▲こ

▲牛膝 痔瘡 痔瘡 中風 毒 出血 出血 血腸風 血痔 血痔 血腸風 血痔 血腸風 血痔 血腸風

同くすり
▲文仲瘧 黄耆 桂心 赤白朮 牡蠣 麻黄根 附子 甘草 人参 桂心 赤白朮 脾胃虚
▲訥多 鍼灸 脾胃虚 黄耆 人参 桂心 赤白朮 麻黄根 附子 甘草 人参 桂心 赤白朮 脾胃虚
▲鍼灸 百病中より 脾胃虚
病五門と法と黄の病脾中
地脾虚温熱の赤白朮と虚
同前の虫くひたるてよし
同部ハいもやまのみ中くらい
▲紅 牛部 牛 健奥ふと 強強と
ツリ ふと食し 続遠と高 黄
疳 ふ強と 利 赤ぐすり 腎
とつくく 同 ふ 強 ふ ぐ ま
柳 ふ 疳 ふ ぐ ま ふ ひ
ふ わ と ふ ま ふ ぐ ま ふ ひ
ふ 疳 癖 病 ふ 強 ふ ぐ ま
疳 病 傷 ふ 強 ふ ぐ ま ふ ひ
ふ 気 紙 板 と ふ 食 ハ 疳 強 ふ
ま ふ 病 再 ま と ▲ 同 陰 ハ 目 の

わ く つ て こ ま ら 目 ま ま て よ り
▲同いわとやこ庚ら部 赤ぶの
疳血腹痛 ふ 痛 ふ 白 府 海 帝 ハ け
頭ふく表 ▲同 四ハ小児の丹毒
ふ ふ こ ま く 強 と ら て 表 ▲ 同 腸
と わ ぶ り 綿 ふ 包 尻 ふ ら ば く
疳 病 ふ 出 と ら ぐ く ▲ 同 骨
ふ ら 焼 ふ ま こ 女 ま の 赤 白 帝
下 ふ 湯 ふ て 用 て ま り
▲蒲 ハ 庸 人 の 合 地 百 病 ま 毒
▲級 胃 と ま ま ま と
ま り ま 貞 ま ん 元 卿 地 ま 強
赤 白 痢 小 夜 と 毒 ま 強 病 ま
▲干 絶 ひ ぐ む ま 強 病 ま 用
▲背 以 魚 ハ 強 病 ま 赤 ひ め に ま
▲鍼 腎 と 竜 ら 食 ハ 虫 地 ら と
▲海 前 腸 同 毒 と き 強 一 ま の
脾 腎 の 業 但 ら 合 疾 と 強
▲江 ふ り ふ ま り ふ ま り と
▲て

天門冬、蜜漬ノ方七
傷寒痛ノ方ノ痛ノ後痛吉
四味 山栁皮ヲ用ヒ
食ヒ過シ低痢痛ノ毒ニ
猪肉 赤白痢ノ方ノ

胡葱 中ヒツメ毒ト下シ
食ヒ清シ虫ヒ
低ヒ合ハ毒ヒ
ヒ見ヒ挽ヒヒ外毒ヒ
蠱 ヒ続合ハ
痛腫金瘡無ノ
熱ヲ
ハ
黒
ヒ
ヒ
ヒ

赤小豆乃粥　小豆乃粥　腫毒
痢と止びき酒毒と赤し用
とゆるしあるとかとし小児乃
丹毒と治と合とし
熱病　病下四とくし治と
治粥　虎杖乃カ
脾胃　結中　痢疾
但し　痢疾　痛いもの
毒あれば　つふ合も
病くさい　地黄
陰中のかゆくふさし
四し　ふりて
あるとのとて　地黄
小児乳のとり　この乳小
もちゆ
其酒　又燒ひ
腸　痛中
とし出心腹
案　池酒

赤小豆乃粥　腫毒
痢と止びき酒毒と赤し用
とゆるしあるとかとし小児乃
丹毒と治と合とし
熱病　病下四とくし治と
又小麦乃粥　毒と
赤小豆合　熱と
ら乳食とくめ　痛腫
腫酒二夜とくやら　腸下
四乃さあざに常
但豆食とれば酒

▲同卵 法病に用ゆ 緒卵に同し
いとりとり毒おかす 同し出痢病の
うしてくつべくしく出 毒力をくはしむ
毒力をくはしむ 血とどまりし
同卵 蒸熟赤 刺無のうち
又湯火のやけどにぬりてよし
▲緑豆 もりかりしふわり
▲蕎麥 毒力とまり 無乃乃の
業黑豆 ほしく食 病の血
とどまりの性血とどまりぬ
久後まづくふと治もて
丹雄鶏 ふいるあり
▲鰈 ひあとやつれげ 陽胃
ひ泄瀉ととむ 泄瀉ちつ 酒の
毒とさ 毒ちつ 泄瀉
と毒 乳汁去 紙 痢疾
くられ 痢出疾 毒
赤目 法病用 流の屋
毒ひあと 鶏 食べ
但し 食い泄瀉

▲同卵 法病に用ゆ 緒卵に同し
▲同食 食べとの 酒 陽水
▲栗 栗のあしい 汁と 陽水
ひどんぐ ふが こい
出 とく 血 とく
▲併 栗 大腸 痢
引つ 但し 風
酒の 乳汁 だ 食
栗 疾病 小兒 ふ
▲梅 梅の 実 ひ
▲野 栗 ゆ
▲蕎麥 わづ 法 実の 毒
夜 泄瀉 夜 痢 ひ 泄瀉
とく 法と ▲同 ん と 出じ
痛 す 白 血 と
▲鴨 栗 病 丹 毒 芳 虎 用
あ 乃 と 痢 熱 痢 と あ 熱 風
実 熱 と 但 血 と
血 虎 ふ ひ 血 病 と 生
血 食 と れ ば 脾 腎 虚 あ

▲蘇　蘇府　方藥百病ゝ
▲流行　流行人食とけす
▲鯉魚　胃　胃とわゝめ氣血を
補ひ中風の痛と風ひけ腰ゝ
▲虎　虎の痛と風と
▲脾　脾の虫　脾の虫
▲蛇　蛇の毒　蛇の毒
▲牛　牛の肉　牛の肉
▲羊　羊の肉　羊の肉
▲猪　猪の肉　猪の肉
▲鹿　鹿の肉　鹿の肉
▲酒　酒の毒　酒の毒
▲さ

▲酒　酒ゝ人乃用る不祥毒云
ふ及びどうゝ業乃精と上に
めゝ〜せ百邪毒乃氣と去

▲牡丹　牡丹の根
▲大酒　大酒とされば神精と被部
▲関　関換しゝくゝを天年とまた
命とうゝ
酒乃所乃人ゝ
酒乃所乃人ゝ
▲紅豆　紅豆　紅豆病乃業痛虫
▲瘧　瘧と治し　精髓骨氣と
氣血を補と和ゝ十二種脈と
▲胃　胃とゝゝやゝ
▲ひげ　ひげゝと黑ゝ
▲麻　麻　麻とのぶゝ
▲麻種　麻種　麻種
▲麻種　麻種　麻種
▲麻種　麻種　麻種

山椒　中をあらためて乳をとる
眼　黄疸泄瀉を治
宿食をとる　血脈を通
と教し　虎と治と骨と補
痛に用る　ひざかいなを
但ひふかゆく熱の出来
疑　又痢赤白痢泄瀉
とる　又腰痛　痛ひ虚損
▲同ほ吐血　蠱毒と治
▲編　気力腎　骨髓　陰気
乃ちとりて合い出損
▲青魚　中の白ことゆてくる
▲抑気と治と熱疾喉痺目
▲とゆくる　秋　細
▲鯉　小児痢出血痛　百病の毒
▲鮒　ひの気力とまり　陽風泻血
と治し　労虚　骨髓と補
血と破て血痛　血痛　耶病　毒
▲雑喉　くゆく　強病ひの業
色食の出ふさり泄泻と

▲蜆　胃とひ〜さんぞ古血と
くぐと但しと合い出こ内
▲きさ
▲木茸　気力とまり　鉄とる
かゆの志とつく　痔ふく貝
ゆくて但しと合い個疾
▲桑耳　血痛　血痛疾　百病
胡瓜　渇　紙　但
ゆ淋と治と但　出疾
毒と気血と　腎元疾
▲金圓　気力まり　貫紙ひく
但血の乃出疾　大ふ
▲獺　くつ紙　かと
ちく強病　ひのと利と
▲黍　筋骨　ちくく
再発と　獺
▲蜀黍　中と　漏の責乳と治
▲同拍とせんで　痛こう
▲金椿　酒とさ　し食とめと
▲拍責　酒毒　白濁とと

但し小児疳癖に用ひる事
して千ゆ
▲ホ漢 疝病の毒を食べば
▲疝 蓼蟲 又疝つ
雑 中と衝ひ
とあ 疳乳と云べ
但し大小便と破る 痢疾
▲ゆ
▲ゆ 鱗 カ
生い 痢 鱗と
あ乃 利 清
但し食 吐 泥 御乳
屋 ょ
湯漬 食 陽胃熱
霍乱 やめ毒とけす 但し

▲柚 酒毒 食
生 用く風乳 去 ▲柚
用 但し
▲め
▲ぬ あくまで
▲ぬ 芋 雑 茎 食
ことを 離 却
▲み 用法 ひの
▲み 蕨 芹 ー かり
おろ の ち ざ ひ
▲まつかーの 胃 ひ 目
▲ま 芋 貝 ぬ 精 目
ん 耳 と く と 特 去 四
ち 四 れ 腹 ひ
▲む 蓼 荷 ち 拾
▲む 拾 と れ お ま 門 小 毒 又
▲む 茶 力 ど す ▲同 指 蟲 毒 蛇
▲む 毒 と ら く 拾 ま ら ゆ ど ー
▲む 松 酒 毒 と 海 ー 胃 ひ く さ

食とゝめ出血出血紀心脇
いたれつゝ熱し小腹
より但力のみと用食といむ
▲味噌 ひやと猶ひ伯病 用油
結人和名乃調味料
▲蜜淋耐 吐く男ひ出精
寸白乃虫とゝろと食とゝむ
▲蜜棟 胃とひゝさ腸中乃
腸気結ぐ脚と脚中乃
但女食ひ猶ふさぐ疾と結と
▲ほたた燒ぐ丸ぐゝ
ふぐさと治と▲丸燒
唇ひ青ゝゝ
▲鶏 女乃ちゝぐ
ゝ燒ゝ 淋病乃
ふあぐゝ 結病
ひくゝひ結と去
▲水鶏 乳乃出ぐひ去
吉ゝれひふく月ゆ脇と安ゝ

血とゝめ月ゝ吉但備きおこり西
▲
▲紫蘇 風寒疾とゝ
霍乱脚気乃魚乃毒と
懐妊ふゝくゝ
ふくゝひゝふさと治と
▲白藻 ゝれとゝ腎結亂
まゝふゝ月のまひゝ
▲椎茸 血とやぐり酒と
出乃毒ゝ乃星ひ
ぐゝ血とゝゝむ
生いゝゝくゝ
▲蟹瓜 湯と止ゝ
と毒と但屋沒瘧結痛内
▲燒耐 小後と利ゝ世とゝ
大後とかゝと霍乱嘔腸
ゝり心腹沒痛ゝ但欲
とれひ胃とやぐり肝とやぐと
気沒痛のゝ熱食令と結
▲胃油 結痛ゝひ大変ゝゝゆ

小麦はかり〳〵乳汁にて胃換
し服いてこれ泄瀉と腎の毒
白小豆　強腎の薬　白湯
白胡麻　ろうご酒の類
あく　緒ものぐさ
柘榴　はまうりとあこの二戸の虫
ろうと酸はか白朔あり
ろ〳〵のこと〳〵　但腎と換
禽とそんど　疾とまと同
脫肛下血弟下痢　痢ぜんじ
押　療　黒焼にして赤白痢泄
瀉　ひとり　寄　粥
椎　血とろ〳〵　疱瘡の禁忌
冥干　八月　鳥の肉沢と
白鷺　脫肛下血久痢と
略　泄瀉　赤白痢と
粥汁とまゝ　腎水
白魚　ひいと　但血と
ひゝやくさんの毒小児食
痢　ひゝとすと

鉄　虫積　聚疾　咽吐　百病毒
紬　虫積血の病　疱瘡　百病毒
腸淵　ふ食虫毒　但　淋疾　鹿
蜆　湿毒湿　毒と云　酒毒と紅
暴熱と云　小便と利一日と
ひ清酒と　酒　御
労療　虫積　痔と　ひいと
ひ食と　む　煎汁
とわ〳〵ひく　ふ　ひ　行
疱とわ〳〵いて　あ　ひ　痢
但ゆ食　れば　喉　乳代
ら　清と清と
　　青と　日　粉　血
とと　ぐ　虫と　ろ　疾　乳
ふ痛疾　痒と　酒　疾　毒
こと　れ　ろ　疱　ひ　こと
ゐと　酒と　粉　ひ　ふ　こと
出　目と　へ　細　ふ　こと
一切　も　乃　邪　熱　疾　毒　も
と　し　む　疱　瘡　ひ　て　し

但し水腫脚病小便無してかゝるとき一病なり血を吐て血を吐てる合とれい血と吐く
一肺とやぶりたるとき

▲豌豆　いわと利一泄痢止逆
有毒小便と利一腸胃を熱治
二乾と云一乳風と云
粉にして痢腫瘡疥小付て
らくびと用合梅毒の命とす

▲緑豆　法毒と毒用
和名やえりと云えり乳と搗
種脚と也一小便と利一腸胃と
消一泄痢と治と▲枕ゝとれい
ゆ痛目と治ゝ吐逆と除く

▲鶏　本草に毒多能とれ
ゆ有毒小魚小鱗
ゆ出と治と大毒なれ乳母
うとゝ入せどとゝ法法病ゝ
鶏　久痢瘧病労瘵痰裂

血掘赤白痢病泄瀉虫ゝ
ゆうい百病ゝ治す蜂ハ毒ゆ

▲鵝　大人小児ゆ毒ゆ
ゝとおう一脚気眼病ゝ西
但し酒毒とけと又痘病極
腫上ゝ付て吉くハ大毒

▲ひ

▲葱白　多ゝ食ゝ
傷寒中風を熱ゝ中風ゝ二種と
出一下痢下血ゆハ血と
後陰陽心後のゝと目ゝ
き耳ゝ
げ関節と一
ゝ痛治効ゝ
くちとゝ一乳癰と
疱瘡ゝ風毒入ゝ
▲但蜜蜂山犬雞と
▲蒜　九竅と利一蠱毒と殺し
ゝ汗ゆ熱と除ゝ

利し勿く記す赤腹熱腹吉
腹は用雞毒勿し但中と
水一腹と換と色食とろに
いきれて腹ごろとろんと面
▲弦病 吉淋病の痔
下て腹ふげく小便ふがり秘
痢金瘡瘧疔毒陽
換どけし貝式ひし風と
去女の血病白血長血瘡病
う瘡の血とろの血血とろ
又生ゆくとろ小児の白毒
う久ぬらでき病あり
毒虫のさーろふもう
▲菱実 ゆでく中とやもんで
ふとと衝八酒毒とう毒
とやり血流尿血の病癖
きまの白のかまげと治貝式
ゆーろひとろと但一
毒食ハ腕脚ぬやあり神
と換一虫ぞ腹くろてに

▲ひら茸 虫積疳癖の毒湯
煮してくへばよろしてらば
▲麻角菜 貝とひろ
酒と骨蒸劣熱とて但
久蒸ふ瘤疾記
▲裡 弦病吉中風
毛カとまー泄瀉とやり脚宣
治と但ひかれあさ
乳汁とろむ乳母
▲鱠 弦病に用ゆ食とろの虚
熱と去奥毒とろ
▲枇杷 渇とろ
毒食ハ脾と換一虫
▲狸 弦病
▲蛸 小児丈痔吉中風力
血冷く筋力つれ
但一毒食
痢風とやむ弦病の後に用
▲蟹 毒きとろ
うんうてこ式衝八通とひろ

▲雲花　くろひ茶色花ばの
こと屋根葺と有り陽ばは
用とましやせつれ
指ひだりいたり脇腹屋敷
こいかんふうし大人考に食
し小児に用て元病腎間
とらずこと入ろこと
ひとうしてかりこと

▲氷更　りひとうしてかりこと

▲鼠結　爪のろくの黒きこと
出下腹痛乱吐泻
但血とろろと痛
千福　又舞乃出ろ中風の
手足と神ひ結
▲鼠　鼠屋腎屋
但し痘瘡腫物小児ひろ
ふき血乃々の毒血と
▲帳蝶　よく痳出と
八前腫面風病脱江小児乃
法痛こうのくまり
女ふ乃ちらがら血流と治と

▲海雲　喉乃法乱痛病
出疹ちふれいて
とくと食
▲併　中とわこの小後
とろと但食の
ふく神ちと
毛とまぐわ児ふ
▲併栗　まわくとろ
大ふ陽ところふ付
▲椒　大　椒ふく食し
淋病とまとと外大小児
ふろこび毒面
性わこの方病
▲白仁　白仁ふ
三方ふ出の字と書て
のまとれい平産と
産後腹の腫ろ焼

▲海雲　喉乃法乱痛病
出疹ちふれいて
とくと食
▲併　中とわこの小後
とろと但食の
ふく神ちと
毛とまぐわ児ふ
▲併栗　まわくとろ
大ふ陽ところふ付
▲椒　大　椒ふく食し
淋病とまとと外大小児
ふろこび毒面
性わこの方病
▲白仁　白仁ふ
三方ふ出の字と書て
のまとれい平産と
産後腹の腫ろ焼

▲海雲　喉乃法乱痛病
出疹ちふれいて
とくと食
▲併　中とわこの小後
とろと但食の
ふく神ちと
毛とまぐわ児ふ
▲併栗　まわくとろ
大ふ陽ところふ付
▲椒　大　椒ふく食し
淋病とまとと外大小児
ふろこび毒面
性わこの方病
▲白仁　白仁ふ
三方ふ出の字と書て
のまとれい平産と
産後腹の腫ろ焼

本草かけん 鉛丹 ちゃうの毒 遠志 ちゃうの毒 但し奥の料理 おもきしわいかさし同食と
山ちゃうしゃうて死ぬ 而毒る 小児の痘 痘ちゃうひあっちゃうしゃうの
ちゃうきみ 小児のおいらんだ みいもちゃう乳穀 ちゃうもちゃうしゃうの

セ

▲芹 気をまし食とめ酒と
毒 前四ちゃうち 黄疸と淋
邪とちゃうしゃうとうんとわ
ちゃうさい毒あり 松の毒 出検ちゃんくんぐさいの
松毒 出検ちゃんくんぐさいの
痛 痛和 大おうしゃうひかちゃうぐ
治とちゃうしゃうげちゃうも
赤仮 百病 ちゃうしゃうあり

合とれい心服 ちゃうしゃう痛ちゃう
▲鱈 出検ちゃう 痛かさい 西
▲胃腸 酒毒 ちゃう見とゆ

▲す
▲酢 茶の 奥毒 痛血 黄疸 産
保用 ちゃう 痛 痛 痛 痛 痛 痛 痛
▲水線 痛 痛 痛 痛 痛 痛 痛
▲季 ちゃうと 茶 ちゃう

ちゃうちゃうくらんかん大おちゃう
ある半夏 大小 痛 方寸匕 酒 光
見ちゃうしゃうの ちゃうて 石淋 ちゃう
▲霍 冬 三月 ちゃう 痛 痛
▲鶴 ちゃうめ 腎 ちゃう 腎 血
▲辛 ちゃう 痛 冬 の 痛 腎 血
▲鯉 ちゃう 痛 ちゃう 痛 物
ひ 胃腸 ちゃう 胃 ちゃう
ある 光 ちゃう ちゃう ちゃう
ちゃうしゃう 但し 一 ちゃう
上 ちゃう ちゃう ちゃう
ちゃう 痛 但 ちゃう ちゃう

鄭　何やくもそ[illegible]
しらべしる[illegible]
毒物の鄭八中の[illegible]
大毒人ところ[illegible]
い血と鄭し[illegible]
くらん[illegible]
かつとも合合[illegible]
のもとびの鄭も[illegible]
帳めまく[illegible]　佐毒と[illegible]
腎は猫の毒[illegible]
血虚し効やせ[illegible]
ぬらぐろ[illegible]
鄭毒子　張虎の鄭人[illegible]
うらふぼぐり[illegible]
む

食物以呂波本草

終

∴万合食禁忌

▲猿乃毒　生姜食合大風又
骨蒸を発ス・同牛し合食
すると生ず・同大酒と飲大ホ
あれハ中風ス・雞と合食
ハ泄ス・同そばと合食髪
ぬけ果子の類同とやしい・同
まもりと合食と禁しい
▲狗　犬ハ中すと人と猿と
▲蜒　牛と蜜と合食痔瘡を
▲鶏　胡麻・芥子・麦・大豆
合食癩病ス・同黄乃川
禁物・同新し合食癩ス
・同川狸・慈・猪・麻と禁物
▲狸と亀と酒ハ又血とス
▲椎と緑豆合食人と検ど
▲鹿　鹿しかふぐるす
▲鴨にうと・木耳合食禁物
▲[illegible]人・あひ　禁物

蟹と柿　蟹柿相反和
同類を合食時に相反して生じ
腹をくだくなり
亀と瓜　黄瓜和
大根に地黄ハ苦かと消ス
華ほこさきく林檎酒
柿首に鯖食合同くるしむ
かうもん茶　どくとうとんにつ
けくさきまくらべくばさんろ
人と殺と仲一切中くもれ和
とうひく色ごの日五ろうかど
梅と川柳合合めまひ血と
そしとあれちく熱同とやむ
茶なと河豚魚食合敗死
同類と食合者ら
かすべと牛　麻し林檎酒　同
猪し合食ハ泄瀉と
鮭　とうひくはあと絞ひ
とさしろつるこむ
ろに生姜喫とろふ

瓜　あふけと庭おちびしい毒
茸のあしびろハ敗死と
茸に　桑酒　生姜　人参
蕨乃根　栗　鮒　猪肉和
蕎ヲ　豚肝小食ちれいにぐ
ちろと生　生姜と食合
蕎瓜乃吐泻と生　同
鳥　川柳　林檎和
ちもと合食麻痺　痛と和
生ま　同ちかしし　痛と和
鶏に蘭し根痔と
鶏鍋に木瓜の酸脇脇死と
同柿　青林檎
熊乃肉　横流あるハ人の一生
とけと　同ちと　酒　血と
蘭　ろくのろびしうのえ
ふかあるとうに
梅梅しひとり　林檎
山ろとそし食合出と生ま
同納豆乃敗人と毒と

色黒くなる　木耳

雞　雉

梅酒　同苦し

大小豆を煮つぶし

豆腐

河豚　梅酒　蕎麦　同人参

鱠　赤小豆　梅酒

赤小豆　梅酒

蕨　胡椒　山椒

胡麻　同月　同作

砂糖　雞　豆腐　梅酒

酒の後がゝり　鰹節　青物

同ゝ　同ゝ　ゆづき出ず　同

ゆでし　同食ん痛　とやむ

まゝ魚　石茸　まめれ　梅酒

まぶ　蕨　胡麻　味噌　とろゝ

胡瓜　かい　酒　久粕　汁　とゝ

米　酒　同　白酒　寸白　生

柚香　うるぎ　梅酒

雞　えび　赤痢　とやむ　同

みゝ　同食　脚軍　乳風　痛痢

一切の菌　木耳　の類　痔　とやむ

牛血　同てぢ　生

同　葱　白　生

まかゝ　発　痢　とやむ

同　同ゝ　同食　脚　とやむ

蕨　荷　茗　茗　とゝ

海松　千鳥　脚　とゝ

蜜　粥　粕　味噌　冷下

同　奥ノ　梅酒

耐　蕎　蕨　痔　とやむ

葱　地黄　髮　同　帝

山椒　同　大豆　血痢　とやむ

蕨　ゆん　梅酒

蕨　海亀　同食　れ　皮

化　亀　食　れ

枇杷　鹿　奥　鹿　鳥　猪　肉の類

令食禁好物終

金寶聞書全冊 終

于時元祿四辛未暦
孟春吉旦

大坂北久太郎町心斎橋
書林 平仁

高麗通
京都 孫兵衛

日本橋通一丁目
江戸 村上源兵衛